



名家題砂子秋目錄

乾坤之部

高枕翁	送火	魂棚	刺鱗	貸小袖	星逢	七夕	殘暑	文月
十四	十三						四	一
切翁	大文字	菟祭	盆會	硯洗	星今宵	天の川	初嵐	立秋
		十三	十二	十	九	七		
盆月	妙法火	墓冬	盃蘭盆	草市	梶葉	星祭	稻妻	今朝秋
五						八	五	二
躍	炆翁	迎火	棚経	苧壳羹	願糸	星近	花火	初秋
							六	三

秋

秋海	秋空	露寒	夜寒	放鳥	蝕月	月	待宵	二百十日	葉月	生身魂
廿三				廿七	廿三	廿	廿			廿六
秋川	秋空	冷	初寒	初夕	十六夜	月見	名月	初月	竹春	捨待
	秋空					廿四	廿二	廿九	廿八	廿七
秋水	秋雲	身入	肌寒	落水	有明月	秋月	今日月	二日月	八朔	入
	廿三	卅			廿六		廿三			
秋雨	秋風	秋日	秋寒	朝寒	放生會	雨月	月七宵	三日月	繪夕卷	八月
廿三				廿六		廿五				

露時雨	秋山	今年米	稻刈	漸过夏	早稻酒	初葺	鳴子	角力	露
	廿六	廿五	廿四			廿七	廿七		
秋霜	秋野	新米	掛稻	十三夜	新酒	九月	引板	过角力	霧
哭								廿六	廿四
秋暮	花野	秋夜	稻舟	后月	今年酒	長月	添水	鳥驚	扇置
							廿六		廿五
行秋	野分	長夜	落穗	田刈	升市	后雛	菌狩	案字	捨團扇
廿九	廿七			廿三	廿二	廿一	廿四		

秋

暮秋

冬近

辛冬隣

九月尽

植物之部

一葉

柳散

垂鼠尾花

垂草花

藤袴

垂紫苑

朝顏

蕨

蕨

垂芒

垂桔梗

垂荊菅

女郎花

男郎花

垂秋海棠

我木香

木犀

芙蓉

風仙花

卒曼珠沙花

蘭

木槿

芭蕉

空鸚鵡

葉鸚鵡

蓼花

尾花

空芍

稻花

空稻

早稻

空晚稻

蕎麥花

新蕎麥

空蕎麥

葉生草

芋

零餛子

飄

種飄

西丸

糸丸

烏丸

鬼灯

蓼花

若蓼

菊

十日菊

殘菊

野菊

初紅葉

紅葉

著紅葉

垂柿紅葉

草紅葉

末枯

色之丸

垂間引葉

梅嬌

柚

柚之丸

柿

滋柿

栗

木實

椎實

生類之部

虫

辛七

蚕

辛六

杉虫

鈴虫

辛五

縹虫

葉立虫

蟬

竈馬

辛

秋

	鹿	翮	翮	鶻	物	鷓	秋	蜻	蛸
	笛	引	築	鷓	鴈		蚊	蛉	
			空	九		金	金	全	
追	鹿	沙	物	啄	鴈	燕	秋	秋	蓑
加		魚	鞋	木		歸	螢	蟬	虫
		空		鳥					啼
		河	鞋	掠	鶻	渡	鉅	秋	空
		鹿	鮎	鳥		鳥	明	蝶	空
					空	美	鳴		空
			野	山	鴨	渡	稻	秋	螭
			鮎	雀		鴈	雀	蠅	螂
			鮎						

	鹿	翮	翮	鶻	物	鷓	秋	蜻	蛸
	笛	引	築	鷓	鴈		蚊	蛉	
			空	九		金	金	全	
追	鹿	沙	物	啄	鴈	燕	秋	秋	蓑
加		魚	鞋	木		歸	螢	蟬	虫
		空		鳥					啼
		河	鞋	掠	鶻	渡	鉅	秋	空
		鹿	鮎	鳥		鳥	明	蝶	空
					空	美	鳴		空
			野	山	鴨	渡	稻	秋	螭
			鮎	雀		鴈	雀	蠅	螂
			鮎						

温酒	毛見	茗花子	牡丹根分	小雜花	粟	芦花	後彼岸	亥中月	茅名月	八朔梅
占酒	巨燒米	新生姜	荔枝	澤桔梗	粟刈	芦穗	司呂	上弦	立待月	新月
鷹樹虫	醉醪瀝	角力料	秋茄子	靚膳	柜	花芒	駒迎	下弦	居待月	夕月
蒼鷹	濁酒	鴨上戶	種茄子	万年青	蜀黍	芭散	堯駒牽	星月夜	伏待月	小望月
					百					卒八

小鷹將	小雀	色鳥	尾越鴨	樹別	初芽	毒芽	月名殘	新綿	花紅葉	漆紅葉
飛吹	巨四十雀	頰白	雀成蛤	巨置洗灌	灌芽	櫻芽	巨牛糸	稍豆	梅紅葉	檀紅葉
鴨突	五十雀	頰赤	綱代打	菊合	紅芽	豆名月	野宮別	藥堀	梅紅葉	柞紅葉
菊了了	巨高	火燒鳥	秋樹	菊名綿	羊肚菜	石月見	木綿取	薄紅葉	橘紅葉	紅葉將
									巨	

秋

名木散	野山錦	蕎麦刈	木賊刈
梨子	蜜柑	金柑	九年母
柘榴	葡萄	棗	蓮実危
木通	椎柴	椽实	櫻实
菩提子	柘实	椴实	梅檀实
桐实	木瓜实	围栗	秋鐘
末秋	秋深	冬待	秋名残
都而四百題			

俳諧發句題砂子集

八雲詠守編  
等園等栽校

秋し部

文月 文月や子けささきよしそぎの海 菊三  
 文月の霞を暮さう 吟きめ 蕉雨  
 文月や人け中なる 天の川 寒松  
 文月や金満のそりけまなう 梅実  
 文月の人やえおくる人けより 由勢  
 文月やとせまうとく新流立 為山

秋

立秋  
 文月や之のりては人通り 菫宇  
 文月や之のりと暮るけ 木月尼  
 文月や家より世をうらとさ 菫了  
 二三人立秋思ふり 菫太  
 秋立や道の系賣の池めぐり 士朗  
 あき立や枝をたぐり 長翠  
 ぬれ扇 秋のるよ秋をまきり 成英  
 秋立や秋のるよとて天の川 大梅  
 立秋やといと月文鏡の巻 蒼帆  
 秋立や親よまきりしと春竹 ぬよ  
 庵んて山もあひの秋立志すよ 梅室

秋立やそと海うらとて 風朗  
 あき立やうらとて 唐年  
 秋立や穂しあは 年風  
 照の中を秋立風のぬけを 淡史  
 秋立やうらとて 白吟  
 立秋や照うらとて 双鳥  
 秋立や枝うらとて 岸評  
 秋立やうらとて 由吟  
 秋立やりの入るものひとありし 法与  
 立秋や 除を志す 柏樹  
 立秋立よ 柳のふ 等威

秋



今朝秋

けさの秋花とすしんふあ  
曉花神鳴もききけさの秋  
ぬのはしもちうまわらさる秋  
みりやうまわらさる秋  
けさの秋のあをれよのほらさる秋  
魚の血よあまきけさの秋  
減るのさるさる出まわらさる秋  
さるさるさるのあやさる秋  
魚群の岸まきさるけさの秋  
みりやうまわらさるのさる秋  
田んねりさるさるけさの秋

曉  
几  
大  
名  
士  
千  
風  
終  
嵐  
連  
一  
具

庭掃さるさるさるさる秋  
桐のまきさるさるさるの秋  
鐘のまきさるさるさるの秋  
ひらひらのさるさるさるの秋  
拭きさるさるのさるさるの秋  
こらさるさるのさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
水さるさるのさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋  
さるさるさるさるさるの秋

林  
多  
み  
小  
鳥  
尖  
鳥  
抱  
成  
等  
栞

秋

初秋

まの秋やまのちみゆる空の清と  
初秋のまのちみゆる空の清と  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
少雲よまの秋を清きるけり  
初秋や清きるまの秋を清き  
まの秋まの秋を清きるけり  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま

荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青

残暑

初秋や秋葉つぎたるまの秋の色  
まの秋やまの秋葉つぎたるまの秋の色  
初秋や秋葉つぎたるまの秋の色  
初秋や秋葉つぎたるまの秋の色  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま  
まの秋の清は清きる草のま

荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青  
荻 青

秋

初 氣

寺は向ふに在るまゝは妙善の  
言海へは燈むる妙善の  
あふくと聲するのくは妙善の  
汁の交はれあふくは妙善の  
行果し妙善のまゝは妙善の  
花をまゝにして妙善のまゝは妙善の  
古池やぬふくは妙善のまゝは妙善の  
花をまゝにして妙善のまゝは妙善の  
節のくは妙善のまゝは妙善の  
くは妙善のまゝは妙善の  
名白のまゝは妙善のまゝは妙善の

旬子  
言子  
松竹  
一具  
梅室  
白雄  
保吉  
由是  
其白  
其山  
感身

初 氣

寺は向ふに在るまゝは妙善の  
言海へは燈むる妙善の  
あふくと聲するのくは妙善の  
汁の交はれあふくは妙善の  
行果し妙善のまゝは妙善の  
花をまゝにして妙善のまゝは妙善の  
古池やぬふくは妙善のまゝは妙善の  
花をまゝにして妙善のまゝは妙善の  
節のくは妙善のまゝは妙善の  
くは妙善のまゝは妙善の  
名白のまゝは妙善のまゝは妙善の

夜白  
仙鹿  
一具  
軍吏  
甚村  
士朗  
其夫  
碩布  
葛三  
鹿外  
蒼丸

秋

橋妻やまこさうきくぬ海の奥  
橋妻やおもくく岩戸の秋舟  
いまのまやるをせねとさか可き  
ひまはまや生洲の暮あき 新  
橋妻や高の親ふ秋夕うせき  
いまはまの雲よきある芦石  
橋妻や人れき一さだの唐と  
橋妻や高麗見らうて後まもり  
いまのまや河をいんさく橋の人  
橋妻や柳むらうのまき一岸  
橋妻の庭よきさか一敷のう

車  
風洞  
霞白  
落山  
桐古  
多よめ  
尾山め  
等裁  
成ちあ  
梅室  
紙白

花火

橋妻はうさあうさや船の光は  
いまのまのわらさなるやきの中  
秋を秋はきききききき火は  
水船も宮を捧ぐるを火丸  
霞ありて影の唐いり花火は  
ちるものく中よももらきき火は  
所目通う雲よいよまぬを火は  
かこよも扇松よ人立を火は  
川流のそやうらうら火は  
さうらうこと見えぬを火は  
月の物よをうらう火は

仙危  
就中  
白雄  
是丸  
瓦村  
由燈  
崔史  
有首  
松月  
心阿  
一目

七夕

七夕や桂の葉を月影し  
 七夕やわらわのひびきののねくら  
 たるまの雲は層々たる名所  
 小舟またやと舟桂の竹の舟  
 七夕やちうらうらふなひよふた白  
 七夕や秋のめくくさきはくさ  
 七夕や右隣の編のよまたり  
 たるまのくやと宿世をふ福古  
 七夕やくさくさあるねはねくもり  
 七夕やまけあきこ万世帯く丸  
 七夕や人の思ふく五松子先

白  
葛  
乙  
二  
後  
物  
風  
朗  
蒼  
帆  
沙  
碛  
淡  
波  
あ  
よ  
一  
具  
舟  
左

天の川

七夕や雲下流せし瓜一  
 七夕は打とくくわ瓜もこけ  
 七夕はあひのひの文をさ子丸  
 七夕や用くくくく出る雲の人  
 このうな星よりよまんゆき丸  
 玉は河とひねりては見えぬ  
 夕雲はくくくくくくくくく  
 満さうまののひききききき河  
 横所ちまの雲多し天の川  
 天の川見るとや雲はゆき丸  
 流るとあひくさきくくくくく

丸  
起  
井  
竹  
の  
成  
さ  
め  
舟  
甚  
白  
雌  
士  
朗  
古  
暮  
蒼  
白  
蒼  
帆  
舟  
室  
由  
左

秋

為あつて世のうらみ川らわすの河  
 地よりなる屋を澄めてあまは川  
 さらけぬと見ええくふもや天の川  
 松風の激よきまらまら天の河  
 澄まきり一雪をこけ阿まの川  
 招く岸をききこけ伸て天は川  
 天は川八りまきまきと哀きり  
 まらけり田のうらみ種や天の川  
 伐てよきまはねはははる天の川  
 月よりも梢よきまらまら河  
 海なるうらみ種あつて天の川

風 陽 白 具 年 尺 悠 外 年 同 裁

星祭

見ようのうらみと見ようのうらみ  
 庭掃くこのうらみまらまら星祭  
 簾こけまらまらゆりや星まつり  
 星あつて灯のうらみまらまら海  
 秋まら扇なつてうらみ星まつり  
 親を待つ子もまらまら星まつり  
 心こけまらまらまら星まつり  
 船宿よまらまらまら星まつり  
 川流よまらまらまら星まつり  
 子まらまらまらまら星まつり  
 御幸まらまらまらまら星まつり

宇南 多よあ 為山 是流 暁壺 昔翠 一茶 阜池 流甚 丁知 為

星迎

星逢

道敷とくめりしとて星の光りよ  
大橋中敷川をりつる星の影  
星の急いさとして月や入ぬ  
敷さりけをまて星の逢敷  
子とらうと浦のせし海や星逢敷  
星逢やよき逢とそゆく竹たけ  
星逢や身をまてせせ水のねと  
星逢やあまりけ星をまてしらまし  
星逢や橋をたむ女は居まてあま  
星逢やれはそまて竹婦人  
星逢や秋とるりぬ文和すま

橋 士 郎 長 馬 蒼 乳 白 山 ぬ よ め 社 響 抱 儀 所 風 松 竹

星今宵

りつしとよき夜りつと星と宵  
星の影も浮きまよふと  
ゆるらゆそ枕もなつし星と宵  
よのつげのまらうもなつと星と宵  
史とまらふまらうと星と宵  
何を詩人の端居と星と宵  
枕の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵  
橋の影もくまらふと星と宵

そ 夫 共 葉 梅 室 眉 白 波 同 曲 契 九 葉 書 家 雲 洲 月 居 蒼 乳

梶葉

秋

十も坊やうひを橋の比とて丸  
 書あきくおひや橋の裏まき  
 橋の裏まきこれおひのわつひ  
 願 糸 意とあくおひの糸の白きより  
 一 具 一 二 双 鳥 花 村 一 具  
 多 鳥 抱 静 宝 書 村 一 具

貸小袖

一 兼 小 袖 小 袖 小 袖 小 袖  
 一 兼 小 袖 小 袖 小 袖 小 袖  
 一 兼 小 袖 小 袖 小 袖 小 袖  
 一 兼 小 袖 小 袖 小 袖 小 袖  
 一 兼 小 袖 小 袖 小 袖 小 袖

多 鳥 抱 静 宝 書 村 一 具

硯洗

ついでやううのさー貸小袖  
 かきく書の筆ゆりー中袋小袖  
 美まきなみーま巾かー小袖  
 すまきり何よう洗く人の老  
 洗くすまきりも岩のなるあふ  
 名小巾ー硯を洗く女子  
 あふんきく乳あぬ硯まきり  
 起されておきさう硯ありし物  
 子 市 やんのかまうくぬの岩  
 子 市 あまれ茶の先こく丸  
 子 市 一 具 一 具 一 具 一 具

龜 洲 子 成 子 ぬ 秋 香 是 老 碓 花 一 具 寸 風 松 竹 完 末 奇 洞 風 洞



子市やもつおりの、はそよく  
 こそ市や夕むらむは一そよき  
 庭まあふものも電きう子市  
 子市やおおひけひとく  
 草売賣 草の中はくくくめく草売賣  
 まくまて居きんといふ草売賣  
 商人と一日よまれり草売賣  
 分はくくくめく草売賣  
 親ありわきまき草売賣  
 草売賣 草のひきひけあき草売賣  
 草売賣のひきひけあき草売賣

濱  
 西馬  
 山海  
 由草  
 屋鳥  
 一鳥  
 次哉  
 一と  
 由草  
 草更  
 五羽

刺精

盆會 月ひけやふきわじき  
 人列しきめきく盆のち  
 古くきくくくく盆のち  
 汲おきの形のつく盆のち  
 盆礼やまきり仕草のち  
 うら盆や柳正くく盆のち  
 うら盆や挿陳淋せり盆のち  
 うら盆や盆の形くく盆のち  
 うら盆や盆の形くく盆のち

盆會  
 人列  
 古く  
 汲お  
 盆礼  
 うら  
 うら  
 うら

着靴  
 一具  
 古草  
 盆更  
 乙良  
 希言  
 乙良  
 盆山  
 盆山  
 盆山  
 盆山

盆蘭盆

秋

棚

桐のあしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
桐のあしわらわらふあひの香  
桐のあしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
桐のあしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
桐のあしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉

風心  
夏静  
祖心  
而石  
吹臺  
葦村  
一系  
士朗  
護物  
西月  
左白

魂

魂

玉たるやあまのといへて端らふ  
たきけや道は上の落れ玉  
あしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
あしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
あしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉  
あしわらわらふあひの香  
たきけや道は上の落れ玉

一具  
多あ  
葦村  
成英  
風朗  
碓岩  
龜岡子  
應一尼  
右珠  
多よあ  
茶静

秋

墓

冬宵月は生るる中や墓より  
よきちきんよおれりそき系  
墓よりきせりさけり橋り丸  
ちう系りね風をうりそく久  
甲は甲のそまき掃て墓より  
他人をとりぬの多し墓より  
墓よりわう編多き人をたるとり  
迎火の中や表家前戸家をの多き  
迎火の中やゆれぬをさるる  
迎火の中や理風を西より表を  
迎火を焚新法や只いり

迎

火

完末  
一字  
多あ  
出洞  
淡史  
又、  
有最  
是表  
長翠  
護物  
山外

送

火  
迎火やぬれ網のけしむひり  
むのひ火や裾尾をさるる人通り  
迎火よあまれ世女はさるるこ小  
迎火の火やむのうり見せハ松の元  
迎火の中やそ有定むる娘もあ  
送火の中や露の沙をよ源結  
送火の中やゆれぬをさるる見せ月  
送火の中やゆれぬをさるる見せ月  
迎火の中やゆれぬをさるる見せ月  
迎火の中やゆれぬをさるる見せ月  
迎火の中やゆれぬをさるる見せ月  
迎火の中やゆれぬをさるる見せ月

一甫  
振室  
純也  
等裁  
甚村  
白雄  
三  
卓池  
松海  
江柳  
道序

大文字火 お阿弥の音病起きや大文字 葦村

大文字や一筆 空を深き一め 蝶夢

大文字やちあまふつと一きり 蒼乳

大文字や月を志すけし山の上 遍流

大文字のあまふつと一きり 崔艾

妙法火 妙法の中ふく 飛くめををそ 一瓢

妙法の中ふく 向公を小家り 雨芦

妙法の火を月志すけし 狐坂 旬光

灯籠 灯籠の中をそ 一なる風のお 暮老

灯籠又時のまをそ 一なる風のお 保吉

灯籠やほろをそ 人のまを竹の葉 蒼乳

灯籠の向公を つけれた籠の丸 風訓

灯籠は 封りあまふつと一きり 由基

灯籠の丸を つけれた籠の丸 一具

灯籠や一白 晴し人となり 未屋

燈場の丸を つけれた籠の丸 陽山

二之巻を つけれた籠の丸 祇白

灯籠町の世を つけれた籠の丸 凡外

灯籠の丸を つけれた籠の丸 崔艾

燈のあまふつと一きり 燈籠の丸を 世河

秋

高蛇籠

ほくくともんよるやう蛇籠  
ひらねさき長連のせりやう蛇籠  
秋のよけ書ふうらやう蛇籠  
新ひらとう合さしう蛇籠  
書やうや書ふひらう蛇籠  
里もちも福さまう蛇籠  
柿れあをたぬ家もあう蛇籠  
くまうまう書ふうらやう蛇籠  
白骨れ切籠蛇籠やねれ蛇籠  
めくくせきよまあひのつく切籠蛇籠  
めのねもくしくこのまう切籠蛇籠

曉堂  
成英  
長翠  
蒼虬  
仁堂  
由岐雄  
多よめ  
栞室  
完来  
風洲  
抱儀

切籠

世をあらうつぬ富の切籠  
戸をさうくまけまねやむ切籠  
よけをけう風のせまう切籠  
よまねまうちひれらきう切籠

盆月

水まもむのそまう盆の月  
人の身をはくうあのかき盆の月  
死ねる人の多さう盆の月  
書おけも人もまねやむ盆の月  
見こころけけきまねう盆の月  
とうまやまううまねう盆の月  
病やうとうねうのそまう盆の月

為山  
畠左  
宗人  
一具  
士朗  
の朝里  
岳光  
一具  
蒼乳  
多よめ  
中世

秋

以風の佛もくかたりし盃の月  
 けしけあきくまの宿りしちやきき月  
 傍人のなきるのやまきし冬の日  
 一ひよの東さききなり冬の日  
 照中よあきれのあるや冬の日  
 杖立てしころは五軒の冬の日  
 本宿の松ももりて冬の日  
 ふうけは飯のしころを踏く日  
 四五人の月夜にうらまきり日  
 あき人のまきれてのしころ日  
 けうあきりのとちんをぬきり日

梅玉  
 成ちあ  
 素明  
 而石  
 鹿白  
 草浜  
 岱年  
 曉臺  
 葦村  
 白雄  
 大江丸

志しき人のかきくまをたきり日  
 おきくくまをかりしあきり日  
 ききくせしんをききくまをきり日  
 くかりくまをききくまをきり日  
 ちきくくまをききくまをきり日  
 菊とまきく釣瓶とくまをきり日  
 明鏡のちきくまをききくまをきり日  
 け例を月よのききくまをきり日  
 ききのあきくまをききくまをきり日  
 飛入はけきくまをききくまをきり日  
 まりしあきり日

蒼乳  
 舟池  
 岩白  
 風洞  
 地像  
 菊了  
 松堂  
 千竹女  
 塞馬  
 五詠  
 梅玉

秋



八月 八月や晴日け萩もろくくしき 士羽

八月や雨もろくくしき 玉世 漫

八月や十りちりて萩の山 升六

八月や萩もろくく風もろくく 萩か

八月や風もろくくて山に花を 咲萩

八月や竹を伐らきてなく在 其山

葉月 茅の束のまてしん官葉月 長聚

月舟の足えり白珠の葉月 座染

庭の萩も葉月もろくくね生あそ 碓氷

萩とりの月も葉月の光もよ 卑池

萩お空まて咲く葉月もろく 李喜

竹春 竹はろくく風をあししんろくく 下知

白風もろくくて中や竹の光 素行

光りたりけの水や竹は光 祖心

灯の足えりて葉もろくく小萩の光 由松

さうなるけけをまてしんや竹は光 菅太

八月やあつささろくく小百燈 甚村

八月やまて葉もろくく二日月 士羽

竹もろくくて八月の里産 菅水

八月や家もろくくて田は萩 後物

八月や旦那場もろくく松はけり 舟池

八月や葉の如葉もろくく所子以

秋



八歌の古事文今や水ありり 月夜  
 八歌やひと垣ありー魚の味 庚亥  
 八歌や扇よれせし綺初種 淡史  
 八歌やひとさきの種を採也し 砥山  
 八歌やまうし種とる 埴の根 梅室  
 繪行笠 絵行笠や氏より子に育ら 湧水  
 絵も足と心ほくーのり急と 瓦村  
 絵や 笠と甲中おぬのあつとさ 一具  
 二百十日 君の代や二百十日も 夢とすれ 夢と  
 二百十日きくらゝ月の照くより 照了  
 柳見たりくくを二百十日の丸 空白

初月 ちらよく晴るも二百十日の丸 庭瀧子  
 初月 刈先や二百十日お茶振菰 の菰  
 初月 舟唄のつゆも二百十日の 半舟  
 初月 山里や経のよりの初月夜 士訓  
 初月 甚多日暮ぬんきうろ初月夜 標壺  
 初月 や草本よりい庭の夜 笥老  
 初月 思風の届まむわや初月夜 庭知  
 初月 や壺のそちきうろのふ建 多あ  
 初月 萩萩よなれとを柱ぬ竹 風朗  
 初月 や藤竹はるれ船牛 由堂  
 井井よを雨とんれハ初月夜 就さ

二日月 名月 秋 和 意 なる を 二日月  
 三日月 とうく ね ち の よ 二日月  
 四日 け へ 出 進 せ や 二日月  
 十日 秋 の 雲 前 と 二日月  
 廿日 雲 前 や き 野 の 雲 前 二日月  
 廿五日 雲 前 の 雲 前 と 二日月  
 三十日 雲 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 三日月 雲 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 家 上 雲 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 秋 の よ 秋 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 三日月 や 二 日 の 月 を 二日月

岳 浩  
 士 訓  
 杜 鸞  
 石 外  
 岳 浩  
 石 外  
 中 塔  
 う 都 堂  
 蒼 三  
 蕉 面  
 淡 波

つ 風 雲 け ち 中 二 日 の 月  
 大 雲 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 緑 雲 前 の 雲 前 一 二 日 の 月  
 三日月 雲 前 一 二 日 の 月  
 西 一 雲 前 一 二 日 の 月  
 岳 浩 一 二 日 の 月 を 二日月  
 秋 前 一 二 日 の 月 を 二日月  
 三日月 雲 前 一 二 日 の 月  
 三日月 や 二 日 の 月 を 二日月  
 三日月 の 雲 前 一 二 日 の 月

阜 池  
 見 外  
 蒼 乳  
 沙 砾  
 四 山 子  
 月 底  
 珠 弓  
 西 月  
 松 通  
 而 后  
 阜 池

秋

待宵

待宵やひらひらとささるる 芦屋堂  
待宵やうらうらと輝てし 鏡 膚  
待宵やの十五夜見へき 待宵そ  
待宵や月名もあはれ 秋よ  
待宵や庭を照らす 草花 照  
待宵やこころの庵にありて  
待宵やあはれ月夜のほろこ  
待宵やあはれ月夜のほろこ  
待宵やあはれ月夜のほろこ  
待宵やあはれ月夜のほろこ  
待宵やあはれ月夜のほろこ

白雄  
牛心  
是夫  
梅空  
一具  
庭白  
色洞  
城古  
萩白  
為山  
由空

名月

名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ  
名月やあはれと海を 池はうへ

甚村  
白雄  
二柳  
重厚  
士朗  
巢地  
樗堂  
菖三  
成英  
井出

秋

名月や晴ての後お筆字外 午心  
 名月や新燈さゆる 谷お家 蒼乳  
 名月やひよりお屏と推のけ 窓白  
 名月おゆきと変や 燈ひとつ 沙鴉  
 名月や照立てて思ふ 磯の鶴 淡艾  
 名月やひよりと建し 細の家 而后  
 名月や水と鴉の けしと一羽 抱像  
 名月や川とさよりたさの 山の飛 悠々  
 名月や音うら 細き 麓お竹 水竹  
 名月や清水とけし 山名の色 其山  
 名月の雲をくわりと文より 由望

今日月

名月や草とさよりお筆とさろ 一具  
 名月や庭とさよりお筆とさろ 波静  
 名月やとんをひよりお筆とさろ 言子  
 名月やちを湖水の照とさろ 崎山  
 名月と成りそめさよりお筆とさろ 梅宝  
 今日月 仲磨と魂まよりお筆とさろ 甚村  
 ささくの心おとさよりお筆とさろ 二柳  
 ささくの心おとさよりお筆とさろ 月化  
 ささくの心おとさよりお筆とさろ 其産  
 ささくの心おとさよりお筆とさろ 若乳  
 ささくの心おとさよりお筆とさろ 風詞

月今宵  
 白雲の月よ如くそと家より  
 つゞも色紙をよ月こよひ  
 月よまゝついで雲もと音の伝めよ  
 暑くはをさしはまき月々宵  
 砂よまゝ地をまゝて月今宵

一具  
 枝月夜  
 礪山  
 桃年  
 梅室  
 成ちめ  
 長巻  
 そえ  
 護物  
 色紙  
 駄巻

月  
 川は海と精のあつまる月々宵  
 月と音節一きつたうせまより  
 大くそと雲女なうつし月のお  
 輪妻お雪よをまゝ月夜に  
 身をまゝに響けはまきや磯の月  
 うそつれぬ月と家おの月夜に  
 森よりまゝまゝ原は月  
 新くまやまゝまゝなる海の月  
 松風の地をまゝ敷之岸は月  
 雲をまゝ月をまゝまゝるりま  
 宿をれまゝと出まゝし浦の月

白駒  
 由登  
 暁臺  
 五明  
 祐昌  
 素繁  
 其清  
 雨塘  
 乙乙  
 西月  
 沙

姑しきよいぬ水汲月敷ふ  
 更し厚し男よる月の方  
 葉少しあふたのそは流すの月  
 世のよきたのそえんや月おを  
 病まをぬる影とて人や庵の月  
 増もなき脊たつ月の方  
 誰ともそえんそとらや月の庭  
 限なきとめ安なり月お舟  
 本くせや様う先月お人  
 白鐘ていつくさし山お月  
 けぬあそよいそほも月の空

風洲  
 卓江  
 蒼乳  
 多よあ  
 悠々  
 而后  
 影た  
 梅室  
 七尺  
 貞花  
 淡波

月見

友なつとも又せりしあし  
 月澄や合飲のたきまをけりし  
 月見とてけを飾る小松よ  
 月見とて松よ庭をさそりき  
 燈いとつおまよ池お月見お  
 庭清ら白まて蒼月見お  
 めつともぬ中よとの月見お  
 中つともいよ秋の層月見お  
 多や本の下座おつひ月見お  
 くのつともおひやらまを月見お  
 かつともよまをさつひ月見お

一具  
 等哉  
 士朗  
 梧堂  
 蒼乳  
 沙路  
 丁知  
 卑池  
 風洲  
 由登  
 一具

秋月

一林ぬめけく溪の月見くふ  
船頭の舟改ある月見  
さきさきいよ少ねも雲て月見  
かきうあつ産る層別あき月見  
秋の秋や月を神合松のつけ  
秋の秋を明をも志は月秋を  
書を巻あうらまて秋の月秋を  
さうとさくやの多きく秋の月  
病くくは勿折なくもあき秋の月  
くくわく秋とくもそ秋の月  
山里和照さきさきせぬあき秋の月

廿四

雨月

満干せぬ湖志のさきく秋の月  
秋風を吹く秋は秋もあき秋の月  
神垣をちひくさくや秋の月  
さくそとはあきくもあき秋の月  
波とけく秋を結くや秋の月  
日を追うて水陰きくや秋の月  
船の居ぬをえ也くさや秋の月  
雲うぶを袖もたう月見の白  
晴さけさきさくふ見えそ白月  
あつくとも月の草木や白く中  
名月秋を走らしたく月見の白

秋

舟池 蒼帆 藤山 見外 白鴉 有香 等哉 士朗 蒼帆 雲山 月見

鐘は音もあはれあしるは月  
 白の月されども常の秋をよす  
 月も我も海よとせして白秋を  
 鐘のあといふまの月を光りよ  
 隣子よん喜やしらむ月のけ  
 無漸てよつて月のを響ふ  
 藤系や風山おこも月の鐘  
 十六夜や此の光なるし池の蓮  
 十の秋や方を響りて鳴鳥  
 いまよひたまひしは秋のそめ  
 いまよひわそらく星の消こも

乙良 白 九 起 梅 空 浩 史 新 太 為 山 是 光 長 翠 士 洞 大 梅

いまよひわまきのめはその意通  
 いまよひ又きくくや竹は毎  
 いまよひわくしとまをえもとめ  
 友を結うるは月も沈  
 いまよひわはるを同し春の月  
 十の秋や思はたをわ人おこ  
 いまよひや号えよある年の響  
 いまよひよなうあをせり枯れけ  
 ともあはれをよよ月や揺のこ  
 いまよひの春もいと先をよる  
 いまよひよし建りり年は下り

菘 乳 阜 池 風 洞 護 物 多 女 呂 川 阜 郎 風 外 一 具 由 於 梅 空



有明月

うらみさきまの月をむねの  
多明和ふ地見ま川子水  
多明和月まのくまの一物  
多明和桐田をめぐるあけ  
初まし月形をその放生会  
放生会故や早草流一  
よらふも宿をまやし放生会  
痛け子の仲よりなり放生会  
月代よ人のちるなり放生会  
放生会誰もくまのそらひなり  
ちつせの角かまひぬ放生会

標良  
梅史  
きま  
一清  
白雄  
色湖  
南溪  
貞祇  
為山  
西楚  
一具

放生會

放鳥

素うまきく人あまれきり  
初一を足てあつ籠の孔雀うれ  
足えぬまきくあつ籠一  
とのまも鳥の居らき初一  
まきくまき、肝證をまき初一  
まのつけは五人ありて初一  
まのつけは遊遊を初一  
初一和昔をまき初一  
まのつけ和昔をまき初一  
まのつけ和昔をまき初一  
まのつけ和昔をまき初一  
まのつけ和昔をまき初一

空白  
桑野  
鳥吹  
直来  
山子  
為山  
甚村  
恒丸  
嵐外  
常荷  
遅流

初沙

初

落之氷

白くは小町をくわたりて水  
小首まけり烏くちをて落し水  
是岸より落るるやまゝ一落し水  
水落りて回面をくわたりて落し水  
結氷も落るるやまゝ一落し水  
人もかゝる用をくわたりて落し水  
水垢も落るるやまゝ一落し水  
落るるやまゝ五十歩を流すは  
けささく一落し水  
又れり川くわたりて落し水  
おろりたる一落し水

甚村 一季 三浦人 蝶夢 鹿白 一具 祇白 等哉 一跡 成すぬ あり

廿七

朝寒

ふりて四の氷落るるやまゝ世話もなし  
二日さく本程とあらうや落し水  
小笠さくや雪降の吹し落し水  
おろりたるやまゝの秋法師  
是岸のとれり子供やあきまゝ  
おろりたるやまゝ一落し水  
朝寒や若きをさくわたりて落し水  
あきまゝや出舟くわたりて落し水  
おろりたるやまゝ一落し水  
おろりたるやまゝ一落し水  
おろりたるやまゝ一落し水

就書 深史 其美 一系 月殿 鹿白 蝶見 落し水 松堂 大橋 丹左

秋

夜寒

朝寒や舞臺はあはれ秋は沙  
甲子うら海のとあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙

一具  
梅窓  
琴太  
曉臺  
苔瓦  
梧葉  
蒼帆  
昏帆  
子雀子  
あはれ  
其山

漸寒

あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙  
あはれ秋はあはれ秋は沙

等裁  
由楚  
一寸  
茶新  
由楚  
一具  
成葉  
昏秋  
大鵬  
祖心

肌寒

秋

秋 寒 秋 寒 し 寒 の 庭 を ひらく 音 秋 夢

老 子 子 然 と うぬ 秋 の 寒 さ 日 人

秋 寒 く なる 中 猶 秋 多 の 糞 武 陵

秋 寒 し 中 院 の 秋 寒 さ 風 朔

露 寒 露 寒 し 日 ぬ 年 を 暮 ら ぬ 秋 長

露 寒 し 露 多 せ 牡丹 株 石 形

露 寒 し 海 士 や 海 軍 海 軍 汁 古 瓦 瓦

露 寒 し 海 軍 汁 船 牛 大 船

露 寒 し 船 牛 小 菜 畑 風 高

冷 冷 寒 し 暮 ら なる 露 の 月 春 晴

冷 寒 し 暮 ら なる 露 の 月 干 急

身 入 身 入 身 入 身 入 身 入 身 入

身 入 身 入 身 入 身 入 身 入 身 入

身 入 身 入 身 入 身 入 身 入 身 入

身 入 身 入 身 入 身 入 身 入 身 入

秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日

秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日

秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日

秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日

秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日 秋 日

秋

護 物

秋空

田畑をりておとくしり 秋日如  
秋のりや落みとりなる 聖菜細  
り秋出でよしつ力なり 秋の空  
よきと書しと家回まうぬ秋の空  
一箇う流りよしり あきけそら  
書くと書と陣つくと秋の空  
よきと書と一葉くと秋の空  
百舌をりてと鶯の足ゆるや秋の空  
とれ名やそよよと書と秋の空  
いせとやなると啼と秋の空  
待つし月影もとてあきこの野

嵐 牛  
由 於  
樗 堂  
古 島  
梅 呈  
淡 島  
為 山  
感 年  
月 朔  
丁 知  
國 夷

秋聲

秋雲

秋風

山雲のそれよけてあきけあり  
風の外ありしゆゆと秋のこゑ  
かこそと見つてけきとう秋の空  
あきとやあきと秋の空けりけり  
一日もあきけりきくと秋の空  
月よきとそとちと満ちり秋の空  
あきとやあきと人よとけり秋の空  
秋風や干魚うけり秋の空  
あきとやあきと屋と裂くとあきけあり  
柳よも竹よもよとけりあきけあり  
秋風の吹きとけりあきけあり

万 古  
就 事  
樗 良  
木 海  
蒼 乳  
休 和  
暮 太  
甚 村  
曉 臺  
樗 良  
士 朗

秋

秋風や病もとの鐘をひらき流く  
 ひらくと干涸をくわく秋の風  
 秋風の長き病もとの解るなり  
 豆の葉は秋風ならぬ山の家  
 身をまよふ海に世を置き秋の風  
 泉も水は流るるなほけり秋の風  
 里宿て霧も雪もくわく秋の風  
 海草生やひさし先人を秋の風  
 寺のつらぬ宮々々入る秋の風  
 十年枯まきりくひり秋の風  
 秋風や城をくわくつらぬ秋の風

乙二  
 蒼帆  
 風洞  
 身池  
 嵐外  
 悠々  
 一具  
 杉竹  
 田風  
 林曹

秋海

暮るる秋佐波をまらきり秋の風  
 月ひらとつ波をひらきり秋の風  
 夕やけの赤くわくり秋の風  
 なる雪もるる秋の風  
 秋風や海に舟あり秋の風  
 里んをて生もるる秋の風  
 暮るる秋の風  
 夕照の影もるる秋の風  
 灯の影もるる秋の風

秋芽  
 國亮  
 九起  
 萩白  
 龍宮  
 梅空  
 木兔  
 秀外  
 岳島  
 夷則  
 拙誠

秋

秋の川 見よのりよのけさぬ中 秋の川 長 翠

蔓草よ魚けりけり 秋の川 一 了

夕されも漱きの高し 秋の川 為 白

魚ひとら網うらら 秋の川 万 峯

あつけけりくうつ 秋の水 盛 青

鶯鴨の毛衣深よ 秋の水 士 湖

子ら雁のるるの 秋の水 檉 堂

澄りのかきり 秋の水 乙 二

雲は灯の降り 秋の水 風 湖

おこしとあそび 秋の水 由 池

秋 水

秋 雨

瀬よみらるる 秋の水 護 物

風の進み 秋の水 山 崎

山はけり 秋の水 ち 女

澄りて 秋の水 杜 茅

ちみちち 秋の水 名 風

露のまや 秋の水 白 雌

嵐をり 秋の水 大 丸

位高き 秋の水 士 湖

らん 秋の水 恒 丸

身は 秋の水 一 具

秋





霧

志しき舟中の心をまよわすの秋 淡波  
の波とせよわくあつ月夜心 白  
くたをたれしうす見えそその心 為山  
夜ふとなく静けく折鶴くみ 山方  
年々けさきも見えそ霧さう 真花  
志しき舟とて通るやうさう取 性縁  
の心舟とせよわくしりあきし 白  
らそなや雲場見せよと挽きせ 其山  
いつくらの介し物あり雲の海 士朗  
きうらむわたりをまよせとなく鳥 樗堂  
浪は舟とせよわくしりあきし 淡波

扇置

川きり秋さきしけあうりわす 沙路  
川きりや雲さきしけあうりわす 一具  
静きとや歩の足つく出来をを 白  
國の心は雲たらくし雲の海 等哉  
魚舟は舟とて人舟や雲舟中 成子ぬ  
秀舟は舟とて舟とせよわくしり 松竹  
あつ月夜くしりあうりわす 扇置  
つらふ舟とせよわくしりあうり 林葉  
扇置をわくしりあうりわす 柳風  
あつ月夜くしりあうりわす 扇置  
浪は舟とせよわくしりあうり 成子ぬ

秋

捨圖扇

其くなく敷のそくぬや控うちを  
 即夕またのししものを控うちを  
 控きさまたしなまあさうちを  
 扇力てあさうちをさうちを扇力取  
 結扇力風結あさうちを扇力取  
 ぬくさうちをさうちを扇力取  
 やさうちをさうちを扇力取  
 扇角力さうちをさうちを扇力取  
 立合さうちをさうちを扇力取  
 影さうちをさうちを扇力取  
 川越お流さうちをさうちを扇力取

岳風  
 海芝  
 菴宇  
 社彦  
 砥山  
 一具  
 千万龜  
 多よめ  
 碓炭  
 文路  
 蓮守

扇力てあさうちをさうちを扇力取  
 結扇力風結あさうちを扇力取  
 ぬくさうちをさうちを扇力取  
 やさうちをさうちを扇力取  
 扇角力さうちをさうちを扇力取  
 立合さうちをさうちを扇力取  
 影さうちをさうちを扇力取  
 川越お流さうちをさうちを扇力取

岳風  
 海芝  
 菴宇  
 社彦  
 砥山  
 一具  
 千万龜  
 多よめ  
 碓炭  
 文路  
 蓮守

秋





飯巻のまゝめく打たり川をさぐり  
 小萩まわりの雲舟をたあそぶ  
 里人が温泉より帰る後中小萩砦  
 さうさうさうさうの音を聴く  
 多う萩をたせしやうさうさう  
 此ままおのりよりさうさうさう  
 行ゆけさうさう右なるや竹と砦  
 里よりさう海を登るさうさうさう  
 屋敷のふささうさうさうさうさう  
 湯よりおのりよりさうさうさうさう  
 萩と遠野とさうさうさうさうさう

重厚 上 心 月 居 日 人 其 夫 松 守 外 西 多 林 曹 多 多

初 葺

あつ川のきささうさうさうさう  
 秋風のおろさう川邊のまわりのさ  
 まりくと舟を成らさう小萩砦  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう  
 さうさうさうさうさうさうさう

徳 誠 梅 石 志 白 石 外 山 外 浴 外 等 裁 等 帆 守 翠 志 官 徳 年

松

松茸や松葉を信濃のまきんら

白 雄

まつ茸やまきをこころまき海に

白 雄

松茸おひやうくまきまきんら

松 雄

松茸や松葉八まきひんら

松 雄

なつやや松苗うくまきまきんら

白 雄

又まきまきまきまきまきまき

五 雄

淋まきや菌のまきの産たまり

五 雄

洞まきと喫まきまきまきまき

五 雄

おまきのやまの子のまきをまき

丁 知

あまきまきまきまきのまきのまき

采 梨

まきまきまきまきまきまき

長 深

菌

茸

苞解て礼ひの直きまき子んら

完 伍

まきまきまきのまきのまき

一 葉

茸まきや人のまきまきまき

月 居

茸まきやひんらまきまきまき

一 葉

まきまきまきまきまきまき

一 具

まきまきまきまきまきまき

一 具

松まきまきまきまきまきまき

保 吉

松まきまきまきまきまきまき

三 朗

松まきまきまきまきまきまき

三 朗

秋

九月 伊勢より居て居るるまゝ九月ハ 萬三  
 こゝろなくありし九月の御山ハ 日笠  
 池とちよよと申す九月ハ 碓氷  
 年ハ のいかにかくそと志す九月ハ 尾村  
 冬ハ の満ちたる九月ハ 長年  
 多ハ 將しくやうりの入九月ハ 萬山  
 長月 九月ハ のついでにひまのたうりけを 是夫  
 九月ハ やあひしとありし小田の跡 万和  
 九月ハ の壺のまゝや渡ひきし 護物  
 九月ハ の終りおほきけを 万氣  
 九月ハ やつたてゝ詠め 萬山 西月

后 雛 夕ハ 秋の暮るるを志し後の雛 午心  
 東ハ の見まゝ論人あり後の雛 小圃  
 暮ハ の秋見せしむる君 寒松  
 後の世と人しておのり 萬山  
 海ハ のなるといふは 友甫  
 妹ハ のお料程をわけての雛 由葉  
 早稲酒 子ハ 稻海よりついでに 白雄  
 子ハ 稻海と二つありの通ひ 余池  
 九月ハ の海をきれめて 魚流  
 新酒 秋の暮るるを志し 萬山  
 春ハ の海をきれめて 萬山  
 秋 萬山

此は徳利割りもちひきき新酒小  
 ちり川のきやうて新酒小  
 まめくもあつて見新酒小  
 ち昇のりうたうもあつ新酒小  
 色も香もさうさきさき新酒小  
 前々四もあつてあつ新酒小  
 後つて新酒のそわや二人連  
 見見えの下結ふゆやこり酒  
 味ひもせき味ふやあつ酒  
 つらくも亭主の酌やことし酒  
 新氣を存ふさこありとち酒

蒼乳  
 極宝  
 風調  
 香白  
 多よめ  
 言子  
 西る  
 寒松  
 小義  
 旭香  
 一幽

今年酒

升市飲りて外をまらうや市は月  
 外市やちあつてさき新酒の形  
 四やうこの物集より外は市  
 よの物もはききさきや外の市  
 外市や格をすれて立と酒  
 町中へあつて持さうし市の外  
 新酒宮と新の旭もあつて新酒宮  
 鬼針も新先進らん新酒宮  
 新酒宮さうきき酒宮小  
 獲りるお金ういさけ新酒宮  
 かきさきお水あひて新酒宮

柳居  
 三津人  
 一具  
 拙城  
 祖心  
 由登  
 白雄  
 蒼三  
 風調  
 遠  
 惟子

秋

里



十三夜

とるをみせしむる其事せり十三夜  
初うらましく月の暮し十三夜  
鳴るるをいそぎし言や十三夜  
名残とわりの事月を十三夜  
十三夜寝病をいふは後のあまね  
玉川の流ひらひら十三夜  
桐の灯はつらう十三夜  
おとする月を十三夜  
とく思ふとする言あり後の月  
川くや水と川を十三夜  
後の月へちかき言を十三夜

后月

後の月が母をうしとる言  
を言ましく取つて後の月  
とる言をいそぎし言や十三夜  
名残とわりの事月を十三夜  
日あつてもよき言あり後の月  
日あつてもよき言あり後の月  
名残とわりの事月を十三夜  
水神に壁もかきとる言や十三夜  
晴まると言あり言や十三夜  
そと戸も遠りうらましく言や十三夜  
ついでに言あり言や十三夜

其村 一子 素祭 碓岩 一具 荏史 為山 梅室 梅良 葵太 成英 是美 士洲 月居 蒼丸 梅室 卓池 大梅 淡史 其山 外 卓郎

秋

好まりのつて池也やはらの月  
 月庭の羽織て出たり宿は月  
 一柳  
 兼岬を少のななりぬ宿の月  
 成子女  
 ありつて進を路つとまきり宿は月  
 由紫  
 影晴しまのえをりはらの月  
 田  
 田川 若田川や明て休よりてまし  
 湖堂  
 桂ころを是えして岬も田川に  
 万次  
 暮るうと兼てまらう田川に  
 志山  
 ねのろくし神ふち海を田川に  
 友甫  
 りはらうとまらう田川に  
 友甫  
 暮るうし少田やなうと川に  
 由紫

稻

稻 芥 えらうとまらう田川に  
 大梅  
 川 橋よとまらうのふやいせの秋  
 卓池  
 橋うとまらうのふやいせの秋  
 丁知  
 稻川やまらうのふやいせの秋  
 水竹  
 掛 稲 橋うけては切はつとや淡は町  
 波同  
 とのあも入口あけてけ極丸  
 大梅  
 懸橋や垣一重きもせぬ隣  
 春年  
 つまらうとまらうのふやいせの秋  
 風高  
 稲舟 やらうとまらうのふやいせの秋  
 梅香  
 秋



秋夜

秋の夜や秋のあまれを  
おぼよきまじくうれき  
秋の夜や霜を  
秋の夜や露を  
秋の夜や月を  
秋の夜や星を  
秋の夜や雲を  
秋の夜や風を  
秋の夜や雨を  
秋の夜や雪を

白雄  
成英  
重厚  
蒼胤  
岡那  
西馬  
荦太  
荦村  
白雄  
荦

四五

長夜

長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の  
長夜の

風  
影  
渡  
流  
欽  
推  
子  
由  
葉  
士  
詠  
揮  
書  
乙  
乙  
漢  
物

秋山

秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の  
秋山の

漢  
物

秋

人

秋野

又てわれもゆくなりけりてあきこの山 車部  
 空しくもけふとてやわ秋の山 山  
 を里のうらつらとてやあき秋の山 丁知  
 るは秋ふもけりなりあきこの山 侍  
 秋のやわもくくんとてけ 普之  
 秋のやわもくくんとてけ 一丈 谷年  
 秋のやわもくくんとてけ 小 碓灰  
 秋のやわもくくんとてけ 小 小圃  
 秋のやわもくくんとてけ 小 越夫  
 二曲り見ゆるも心程の小川うれ 呂 翠  
 あつても見えやうらなるとも心程小 翠 松

花野

輝程の装束ついでけりて心程小 梅 室  
 きんくはやもやの風はあはと 為 山  
 梅もやう活筆 ついでて心程小 紫 人  
 舟のやうにやう思ひけりて心程小 一 具  
 白のふもやうとて心程小 玄 子  
 葉のふもやうとて心程小 旦 相  
 出さぬとて心程小 山 子  
 身を向つて心程小 身 郎  
 相実て心程小 見舞ふ心程小 在 村  
 小形中や心程小 新る心 心 雄  
 五位詠のうらなもけりて心程小 心 二

野

秋

嵐物に霜のほこしし燈分  
 あやしくも月おぼくおぼく  
 里さくもおぼくおぼく  
 物さくもおぼくおぼく  
 山さくもおぼくおぼく  
 産の産さくもおぼくおぼく  
 明さくもおぼくおぼく  
 灯さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく

巻之  
 風紙  
 尾出  
 之出  
 多よ  
 古紙  
 成さ  
 由紙  
 白雄  
 浸  
 漢史

露時雨

秋霜  
 あくもあくもあくもあくも  
 山さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく  
 色さくもおぼくおぼく

巻之  
 風紙  
 尾出  
 之出  
 多よ  
 古紙  
 成さ  
 由紙  
 白雄  
 浸  
 漢史

秋暮

秋暮とこれいあ秋の暮一秋の暮  
沸けりや杖をさしけりや秋の夕  
詠ありて人を見らるゝあきこの夕  
すの月をゆやうとさうそ秋の夕  
物もれとさへさうそ秋の夕  
何ぞ秋あをれも秋を秋の夕  
我もさうさうと人を見れば秋の夕  
いそ別れの中は秋の暮  
おしよ秋はけりやう秋の夕  
埃もさうさうとさうそ秋の夕  
厚れあてはさうそ秋の夕

暮太 在 白 士 月 三 蒼 ぬ 梅 風 年  
太 在 雄 朗 居 人 帆 空 帆 池

行秋

月をさそとさうそ秋の夕  
みらるゝさうそ秋の夕  
白の空をさうそ秋の夕  
乙を秋にさうそ秋の夕  
暮の暮の夕はさうそ秋の夕  
さうそ秋の夕はさうそ秋の夕  
足て秋の夕はさうそ秋の夕  
行秋の夕はさうそ秋の夕  
行秋の夕はさうそ秋の夕  
行秋の夕はさうそ秋の夕

天 虚 玄 一 成 就 等 葦 白 冥  
遊 白 子 具 ち 裁 村 雄 朗 冥

秋

新秋を尾巻のきりぎりす  
 一葉  
 刈秋や荏苒歩新草けり  
 一具  
 刈秋や川原柳のさうおとせ  
 右白  
 刈秋をふりこくく  
 天遊  
 暮秋をふりこくく  
 石外  
 刈秋や穂を結ふゆつる魚縄  
 波回  
 刈秋や萩を漉すなる川の音  
 暮淵  
 山暮秋尾をふりこくく  
 卓池  
 打よきる沙あふとく  
 松隣  
 こたくと移の咽おし  
 由  
 けり秋縄やちきれこくく  
 秋

暮秋

冬 近  
 冬をくくくくくくくくくくく  
 寒松  
 冬 隣  
 ちんまうと山里なるぬき隣  
 寒松  
 確けきあさたけしふ山端  
 三省  
 壁いしく冬もとなる小窓  
 風高  
 窓ありしと時をくくくく  
 呉山  
 九月巻  
 錦うた弦切九月巻  
 曉臺  
 籠も居ぬ味の家や九月巻  
 暮天  
 ふえんゆりや和志をの九月巻  
 二頭  
 起くくくくくくくくくくく  
 乙二

秋



まげあや大松細枝九月巻 風  
 又雪をてんやうとすそそ九月巻 池  
 紅葉せぬ推あまれり九月巻 山外  
 径なきも新田社跡や九月巻 一具  
 志らくと雪の砦や九月巻 等哉  
 一葉 あげあひのまき中より一葉小 蓑太  
 ころもぬく風の相の一葉小 白雄  
 産の戸しひらひみきり 相一葉 士訓  
 暮るあらし風ささくこきりひそそ 午心  
 静るらうとこりや相一葉 昔去  
 雨ちかすりの虫まん相一葉 古爰

辛

相ひとまとりあつひのわくし 西月  
 まりひと葉うの表もまうし 蒼帆  
 かきまきこころおとらひひと葉か 栞室  
 親あよりまひひと和桐枝苗 卓池  
 見えまわくし南和ひともの為ま 岳風  
 ちりやうとまなくしととらうと一葉小 窟白  
 手まきと和ひとまきと風のまき 溪史  
 物らうと和ひと私宿和相ひとと 仙危  
 我相まきと葉をうらとめうら 夕顔  
 唇は風まかしくやまうひとと 白雲  
 りらひ火のふとまをまらひと葉小 岱年

秋

柳散

ちりちりて日華く暮る一葉小  
 相ひと葉ちりちり暮る起ぬ内  
 よいそよふらうと相のひらたき  
 つ掃てりて連てを暮る一葉小  
 柳散りそ川や其のさしそちりちり柳  
 柳見よ葉あつものひあや見まこ  
 ちりちりせそそそちりちり柳小  
 ちりちりとあそひそそちり柳小  
 ちりちりともなほそそ柳ちりちり  
 ちりちり海の底くちり柳  
 ちりちりちりちり柳ちりちり

砥山 鳥谷 一 龍 太 毛 白 丁 知 可 大 成 方 由 楚

流尾流

流尾流もや月よりあつらるる  
 みそそそや水さらけさ風のみ  
 ちりちり流のままそそちりちり  
 みそそそや水の中より流のま  
 見らそそやみそそそ流のま  
 流のまちりちり流のま  
 ひららららそそ流のま  
 大目おあつらりや流のま  
 ちりちりや流のま  
 ちりちりや流のま  
 柳ちりちり柳のま

一葉 半葉 二葉 素明 士 羽 在 亜 漫 寒 柳 流 外

草花

秋



朝  
 類  
 垣上り夕下りのとくさきさきまらぬ  
 あさうほよあさうほよ持の御臺古小  
 いふらの世をいふらぬ枝  
 葺く伊はあはふ高きうれ  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て

卓池  
 一具  
 栞室  
 由堂  
 多よあ  
 橋古  
 吹臺  
 士湖  
 定具  
 月居

朝鳥やいつと暮てあさこの花  
 あさこの花とあさこの花とさきさき  
 阿さこの花とあさこの花とさきさき  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て  
 あさこの花とあさこの花とさきさき  
 あさこの花とあさこの花とさきさき  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て  
 葺のひもよさくみ然うれ  
 朝鳥やうらうらと暮をいつと暮て

外  
 和  
 帆  
 風  
 池  
 池  
 池  
 池  
 池  
 池  
 池  
 池  
 池

秋

葦 ちりちりの音 ぬれ世帯  
 あまのつゆあけく 里の輪の風  
 お鳥や中く せき ひとり  
 鈴の音さうら 表なき垣根の  
 鈴の音やさうら せき ひとり  
 お鳥やさうら せき ひとり  
 葦の音 秋の土用 せき ひとり  
 ぬくま 物と秋のゆくり  
 見えぬ ぬれぬれ せき ひとり  
 白濁のぬれ せき ひとり  
 せき ひとり せき ひとり

向 后  
 海 堂  
 彼 回  
 成 年  
 等 哉  
 保 吉  
 士 訓  
 大 梅  
 蒼 乳

秋

痛く見せし せき ひとり  
 せき ひとり せき ひとり  
 せき ひとり せき ひとり  
 白砂や せき ひとり  
 あつと せき ひとり  
 せき ひとり せき ひとり  
 下着や せき ひとり  
 空は せき ひとり  
 白雲や せき ひとり  
 雲と せき ひとり  
 短冊は せき ひとり

淡 史  
 杜 鰲  
 芹 舎  
 一 心  
 米 山  
 真 山  
 一 具  
 空 白  
 成 年  
 等 哉

秋

萩

魚つり枯刀ささり萩のうけ  
萩の葉やあきつらう萩の葉  
乞とさる老のうのよ萩の葉  
萩の葉は風を角のなうけに  
月うと観音のうの萩の葉  
池物ささりささり萩の葉  
一畑子清くわささり萩の葉  
ささりささりささり萩の葉  
萩の葉は細目ささり萩の葉  
おとらんとささり萩の葉

園更 蝶夢 七羽 月居 風洞 龜洞子 舟池 左らえ 松室 白起 籠さ

五五

芒

杉木の葉を萩ささりささり  
おとらんとささりささり  
ささりささりささりささり  
山道の葉ささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり  
ささりささりささりささり

菅太 荖村 大江元 士洞 乙二 風洞 巻礼 茂推 舟池 岩外 桐室

秋

寂しうりく起ぬきし中道の角  
 さしと旭こゝろすしこりぬ  
 かく世家や世をへしとけし  
 ましとくしりしとくしりし  
 しの波はまの世のけあまり  
 あまの世のけあまの世のけ  
 汐先よきしとくしりし  
 竹よりゆきしとくしりし  
 りはちりしとくしりし  
 吹れくその根よきしとくしりし  
 汐風よきしとくしりし

沙路 大木 岩白 抱依 多々 古と 岳風 一者 成り 等哉 龍書

桔梗

桔梗さしとくしりし  
 容易さしとくしりし  
 屋中さしとくしりし  
 荊あささしとくしりし  
 さしとくしりし  
 桔梗や秋さしとくしりし  
 母さしとくしりし  
 節さしとくしりし  
 白さしとくしりし  
 秋さしとくしりし

暁臺 道彦 蒼乳 卓池 多々 深々 見外 林曹 風調 深々 由堂

秋





をみまへし母の風の子をこよる  
 かのけとて風の吹くをみまへし  
 ちりぬて見世を舞あり女師を  
 何やらさうくおぼれし男師を  
 男ししうさうの程の香をたぬ  
 傍白面うしあをやをさうくし  
 をこしし香うぬれぬうさう  
 秋海棠 小庵のつらもあをぬれ秋海棠  
 暮をぬて秋海棠はそよよこも  
 秋海棠あまし七そよよこも  
 生垣よりゆけりさう秋海棠

有 若  
 成 子  
 龍 子  
 伯 丈  
 一 具  
 風 石  
 梧 十  
 一 露  
 樾 也  
 道 矣  
 由 矣

我木香 校小かきり新世や我木香  
 秋海棠あまし七そよよこも  
 日よ三里五里さうさう我木香  
 植こりてさうさう我木香  
 本屏秋海棠遊のさう我木香  
 本屏よまをうれて又さう我木香  
 本せいのちをうけて又さう我木香  
 本せつ又さう我木香  
 本せいのちをうけて又さう我木香

岳 陰  
 一 具  
 本 木  
 雅 矣  
 惟 矣  
 風 帆  
 多 矣  
 立 矣  
 一 具  
 由 矣

秋

芙蓉

向き芙蓉 嬌ゆるやめり夕り丸  
月宵く芙蓉 日くく 花の露  
ふ芙蓉 入るさくらもくも 花さきりし  
花さきさき ちくめを 秋のとりゆき  
秋の 後の 芙蓉 花の 数うれ  
枝こく 芙蓉 花合 芙蓉 花うき  
白粒く 芙蓉 花を 世の 芙蓉 花  
さきく 芙蓉 花を 世の 芙蓉 花  
白く 芙蓉 花を 世の 芙蓉 花  
竹さき 芙蓉 花を 世の 芙蓉 花  
あき 芙蓉 花を 世の 芙蓉 花

晚 臺 七 瓶 巢 飛 雀 池 伯 志 禾 菜 松 隣 岳 陰 林 曹

五九

鳳仙花

いそかき 鳳仙花 花の 露  
駒 買 花 祝く 戸の 花 仙花  
舟 板 の つき みる 花 仙花  
鐘 花 の つき みる 花 仙花  
子 供 等 の 丹 精 しく 花 仙花  
是 とも 花 仙花 あり けり 花 仙花

曼珠沙花

あき 曼珠沙花 花の 露  
この 花 の 花 の つき みる 花 仙花  
右 左 の つき みる 花 仙花  
花 仙花 の つき みる 花 仙花  
本 の つき みる 花 仙花

由 花 一 具 侍 甚 山 南 遅 流 乙 二 万 花 一 具 珠 弓 若 年 俗 年

秋

蘭

よりの葉よりかく目さやを白し  
葉の青より老より赤も病見よ  
まをくくと葉より古人の白ひり  
香を踏く葉より相とく少路う  
らうの香やとうひまらし一  
葉の香や二さうこゆきうの  
葉の香人へのけのさん  
一辨れ葉の香を引る教う  
お白うとうきさゆり  
る葉より秋の物位より  
叶より和葉より本槿より

木槿

荑村  
白確  
士  
月居  
曲阜  
翁外  
弄化  
素登  
荑村  
重厚  
士  
朗

六

そを多なりと君とさう  
人里よりなほあぬ木槿う  
ほかあく木よりけし木槿  
色よりつと木やなりち  
咲きあそと後をえぬ木槿  
香の家よりつと木槿  
おく香を力よ木槿  
挿よせつと木槿尺けし  
お世よりあそれの香  
家建てよりつと木槿  
赤くとも木槿より

成  
荑  
三  
風  
色  
窓  
而  
卓  
嵐  
梅  
山  
一  
具

秋

芭蕉

日向ありてけあつて世に静く  
むねをなほけきくを世に  
ちしくと静かかしくを世に  
を世に葉の風をきくを世に  
最上のいひやを世にのむと  
晴るるまきやを世にのぬ  
むねを世にのむとを世に  
是代のうけまなを世に  
秋といふまなを世に  
破世のうらまを世に  
やまを世にのむとを世に

五明 蝶夢 松堂 去夏 梅室 風洞 米年 一具 子雀子 素竹 西馬

空

鶏頭

鶏頭中追つて後川よみよ  
鶏頭中まのうらまを世に  
鶏頭中葉のうらまを世に  
鶏頭中先朝市にのむと  
けくまのなまを世に  
むねあつて鶏頭を世に  
鶏頭中ひをきくを世に  
けくまのまを世に  
鶏頭中切をきくを世に  
日南のまを世に  
鶏頭中程をきくを世に

百明 成美 由登 蒼乳 塞馬 悠々 相古 貞女 平山 金用 梅室

秋

葉雜頭

厚赤紅や赤きあまの葉を飾る  
 眼先より輝きわたりぬ厚赤紅  
 狭うけし居風名詩や葉飾り  
 細いのを風形もなす 厚赤紅  
 白く一ちやまもつらぬ葉飾り  
 酒桶のたぐ湯うらや厚赤紅  
 葉飾りの中をまわすはあまの  
 毛、種いのりみちり葉飾り  
 泥押二度てあうけし葉飾り  
 初うらまはる夕なす尺ち葉飾り  
 交りぬ葉飾りと似て葉飾り

長 葉  
 流 芝  
 林 曹  
 松 竹  
 氷 壺  
 湯 山  
 由 笠  
 几 董  
 等 栽  
 回 人  
 卓 池

六三

葵 花

澄みやうけしうらやの葵飾り  
 ひらきもちと農葉みちや葵飾り  
 やまののかがみよまの葵飾り  
 むつとまの日の南の風や葵飾り  
 露けあけほけまの葵飾り  
 赤く厚赤紅の葵飾り  
 おのれもや葉飾りや葵飾り  
 むさし一のち葉飾りや葵飾り  
 りんれまの葵飾りや葵飾り  
 水つきの流の中より尾飾り  
 なる葉飾りや葵飾り

松 竹  
 葉 飾  
 素 屋  
 由 笠  
 百 明  
 蝶 夢  
 三 浦 人  
 昔 葉  
 昔 葉  
 松 室  
 大 梅

秋

葛

田畑もなほぬ小坂の尾をとり  
 旅之日尾をよまむはれ一記  
 うほは行月りの見ゆる尾をとり  
 けありのつとなくをむしをむし  
 浪きくさふあり風のむく尾を  
 山一表以て櫓のまん尾をとり  
 るはれ人や尾をよむはれ  
 葛は葉の山より山へ  
 植はれ淋しくありぬ竹のつと  
 山路や葛をくくはれ人の家  
 灯ら風のやらし尾をよむはれ

由 於  
 深 々  
 真 女  
 抱 儀  
 呂 風  
 乃 舌  
 中 之  
 曉 臺  
 昔 翠  
 白 塘  
 九 華

榴花

そのわが秋長くすく小葛はれ  
 月やとれとや中地をくく葛はれ  
 ちよとくくく葛はれ尾をとり  
 少くはぬありくく葛はれ尾をとり  
 ともけくくく葛はれ尾をとり  
 さくはれけくく葛はれ尾をとり  
 榴のむくく民とのくくはれ  
 いぬのむくはれ小秋の半うき  
 大ちはれ病も尾をよむ榴のむ  
 精進とむけと淋しく榴のむ  
 りはれけくくく榴のむ

確 炭  
 深 々  
 素 明  
 成 ち ぬ  
 有 葛  
 蝶 夢  
 存 虫  
 寒 松  
 蒼 札  
 卓 池  
 一 具

稻

於月を枯木へ返して橋は玉	九起
秋はくらくく種むきささるぬ橋の気	流芝
よく見せし月と静くや橋は玉	一路
鳴り渡るくくくささる橋の気	由芝
おきしきくく橋の気ささるぬ橋の気	白雄
ささるぬの地も静くせん橋の秋	寒松
月代をかきくく橋の種泣く	一具
川越して押よせささる橋の波	松濱
種ひく小い小い見えぬ橋の出来	月波
種ひなりて水はくささる橋の出来	田風
ささるぬの地も静くせん橋の波	林曹

蓋

早 稻

陸奥はくささるぬ橋の波	真女
森をくく西日こささる橋の波	素屋
橋は波もくくくささる橋の波	栞室
己世の香やささるぬ橋の波	菊三
子橋は香やささるぬ橋の波	若夫
早稲の香や水打てある庭に先	若礼
己世の香や見えぬささるぬ橋の波	碓岩
己世の香や見えぬささるぬ橋の波	栞室
子橋の香やささるぬ橋の波	石外
己世の香やささるぬ橋の波	若山
己世の香やささるぬ橋の波	一具

秋

晚稻

けつとくく暮字もけつ 晩稲よ  
 従てつてきく新きむ 晩稲よ  
 谷川のきや晩稲をよめつらん  
 ひつる系のかこふなるものよ  
 山畑や空かへるまきくそくせむ  
 さくさくやの起るこたひやそくの花  
 りかきく下りれをきしそくのよ  
 家さく稲のあまなりやそくの花  
 志田くあふるまうりそくわそくの花  
 野くまうりや新のこころはそくのよ  
 池のあふと四つとあけそくのよ

蝶夢  
 玄子  
 一具  
 苳村  
 卓池  
 雪白  
 確岩  
 漣山  
 為山  
 而后  
 梅室

蕎麦花

新蕎麦

新蕎麦やと産あけ梅の如と  
 新そくくや小蕎麦をかうて 秋はあ  
 志んそくくや居なりす月のお  
 志んそくくや猫子をけとよい仕也  
 新そくくや粟科ゆきく 刈ぬら  
 新そくくやりのかきくよ 且那古  
 志んそくくや布子の籠るの史ぬつこ  
 似城はよをぬおとらし 産くし  
 錦本とくくぬ垣根や産明し  
 こさくくくぬぬら新 秋は産くし  
 ひと及そあふる色と産くし

夢太  
 對山  
 丁知  
 山  
 瓦村  
 秋香  
 一具  
 苳太  
 苳村  
 成美  
 完来

蕃薯

秋



さあし〜深〜さ〜唐〜  
さ〜さ〜忘〜を〜や〜藩〜  
臨〜は〜答〜是〜を〜唐〜  
不自由〜し〜初〜植〜中〜唐〜  
白雲路の取〜も〜つ〜ん〜唐〜  
あ〜、な〜、時〜さ〜く〜や〜唐〜  
う〜く〜し〜ん〜え〜て〜ん〜淋〜 蕃林  
浦風和花子も〜れ〜唐〜  
之也〜く〜持〜も〜ひ〜ぬ〜唐〜  
思塚や西口も〜も〜こ〜さ〜唐〜  
白雲さ〜細〜よ〜つ〜道〜な〜唐〜

答丸  
卓池  
沙路  
而石  
双鳥  
成書  
龜松  
一具  
其山  
多よ  
由堂

葉生

茅

葉生葉生あや〜し〜か〜う〜海〜の〜  
葉生葉生あや〜し〜の〜色〜白〜秋〜  
初〜る〜あ〜も〜あ〜る〜市〜の〜生〜葉〜丸  
大は〜も〜午〜ま〜く〜教〜や〜茅〜か〜ら  
茅は〜葉〜中〜形〜法〜沙〜の〜袖〜の〜け  
埒〜の〜へ〜又〜土〜き〜せ〜る〜小〜茅〜丸  
茅細の〜飛〜く〜ま〜き〜日〜照〜ぶ  
垣電は〜せ〜ら〜ん〜て〜身〜を〜あ〜り〜茅  
茅は〜子〜和〜も〜も〜あ〜ら〜る〜衣〜ら〜る〜也  
零餘子 姑〜し〜の〜簪〜あ〜ま〜り〜た〜あ〜ら〜る〜也  
明〜る〜れ〜の〜あ〜汲〜み〜ら〜の〜ぬ〜く〜も〜丸

白雉  
首丸  
祖心  
首丸  
露外  
袋耳  
立字  
色流  
一具  
荳村  
芳之

秋

瓢

少くとも	生うた	まらぬ	掃く	掛る	手拭	人	ひら	うら	か	ぬ
あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ	あはれ
白	白	白	白	白	白	白	白	白	白	白

六七

種瓢

西

十	在	控	隣	く	ら	家	種	用	抱	唐
十	在	控	隣	く	ら	家	種	用	抱	唐
木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木

秋

糸沱

ちんちんのよき年見ゆる西風よ  
志不深よおしんてゆきこゆ風よ  
西風よきるもれと涼しや風のよ  
昇の戸よきりくえや糸沱の  
暮ききりふしとて空か入糸沱の  
りよすれて帰るもせぬるまよ  
節きくわらぬ糸沱の老くまよ  
よい人よ思ひけりて居らまよ  
まらけし年よ取つく居らまよ  
我まよりやまよさうか糸沱  
糸沱のうらなまよ楳のうら糸沱

丁知  
大野  
由野  
栗池  
卓池  
風洞  
虚白  
又々  
清草  
仙華  
清民

烏丸

鬼灯

成る竹よけりて暮らまよ  
多たるとは接らしやか糸沱  
鬼灯や清原の女う生宮し  
あつし思やまよしつらまよ  
鬼灯の盗人抱ておろしけり  
鬼灯やけ子二八の暮しつらよ  
浮つきや月よまよれハ荒まよ  
りつはまの着人通る舟言り  
浮らつきまよまよまよまよ  
空まよまよまよまよまよ  
そまよ一院まよまよまよ

完伍  
淡高  
甚村  
田人  
卓池  
林曹  
清草  
素行  
由野  
雄岩  
清草

菖花

秋

清草

白ひあふりのをまはれむの色 祖  
 下 細きまのむす 由  
 若 草 芽 ぬもとの大桐のうけ 甚 草  
 石女 せとまうを淋しとる 甚 午 桂  
 破 壁 け 気 ぶせとんつりたを 多 女  
 板 口 の ぬよりゆやまを 為 山  
 右 刀 持 の 皆 舟 毒 の 日 向 丸 凡 産  
 嘆 み ち ち 苦 毒 新 下 てる 口 小 保 吉  
 尾 毛 くれ して 白 氣 足 ゆる 夕 丸 成 妻  
 骨 け 足 母 と まし せく の 是 標 壺  
 毒 の 色 下 袴 の 中 け 寄 丸 梅 小 成 英

毒

秋 蘇 下 信 あり くれ 八 まく の 是 是 表  
 赤い 下 淋 かに 色 たり しく せ 丸 乙 二  
 け け け と なる 巾 一 一 不 葉 の 花 蒼 札  
 竹 蘇 糸 ぬ り り 葉 の 物 小 淡 皮  
 せ 丸 くれ と 病 起 ち ね 葉 の 寄 卓 池  
 葉 の 香 下 丸 新 け 燈 小 一 具  
 き しく け 香 下 一 産 毒 しく 照 下 ち 梅 室  
 鹿 の 下 踏 毒 下 序 中 くれ 甚 風 洞  
 嘆 くれ 甚 女 け ち け け 甚 以 葉 岩 白  
 甚 しく 下 甚 しく け け 甚 しく 甚 多 女  
 嘆 くれ しく 甚 しく 甚 しく 甚 しく 甚 甚 年

さく時なつて見ゆる花葉も入  
 のちなれてきのつらく少くも  
 白葉よあせしこころはあひうれ  
 ひさみちく月をぬく葉の色  
 花をむけむもあせしてさく花気  
 葉の香中起てんこれをもの海  
 さく花あやゆらうとまし山浜へ  
 庭先へまきこみやきく花を  
 垣ひとく布を巻くそや菊の花  
 白葉もあせ葉もあせ花の香向  
 りつらうとまきこみ花のねとら

徳  
 色  
 其  
 日  
 林  
 み  
 菅  
 成  
 松  
 卜  
 等

十日菊

白葉つとあせつと結千りれ  
 花候ナ淋しき葉は十日小  
 結せれとつらうなりぬ十日小  
 花の香もくられてあせくの十日小  
 花さるまき十日花さく花を  
 花の香はあせしや十日葉  
 花の香もくられてあせくの十日小  
 花さるまき十日花さく花を  
 花の香はあせしや十日葉  
 花の香もくられてあせくの十日小

花  
 葉  
 梅  
 松  
 石  
 岩  
 苔  
 花  
 山  
 石  
 有  
 風  
 花  
 石

残菊

秋

十  
 分  
 の  
 花  
 葉  
 も  
 入  
 り  
 ぬ  
 け  
 ぬ  
 花  
 葉  
 も  
 入  
 り  
 ぬ  
 け  
 ぬ

花  
 葉  
 石  
 橋

野菊

野菊葉とて、梅より花を咲かす  
とらふあまのの、船を五のせうくさ  
吟遊さく、まゆとらふさきもれし  
舟るものさきさきさく、遊まうくさ  
わらう、木のさきさく、人世に花さくさ  
花さきさく、さきさく、遊まうくさ  
人の花をさきさく、花のさきさく  
さきさく、さきさく、さきさく、さきさく  
知れず、さきさく、さきさく、さきさく  
花さきさく、花さきさく、花さきさく  
花さきさく、花さきさく、花さきさく

そ 彦  
淡 史  
若 白  
夫 則  
一 具  
由 琴  
保 吉  
存 魚  
丁 知  
呂 川  
大 鵬

七

初紅葉

池の魚くく、見ゆかき、初のみち  
さきさく、枝もあひ、さきさく、初葉  
おみち、えや、月さき、の、さきさく、二か  
人あ、の、初さき、の、さきさく、りみち、さき  
浮き、け、のみち、さき、さき、さき、さき、さき  
弓、挽、て、一、里、さき、さき、さき、さき、さき  
初、り、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
土、さき、の、唇、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
さき、さき、の、さき、さき、さき、さき、さき、さき

等 裁  
梅 室  
華 村  
冨 文  
葵 太  
白 雄  
重 厚  
士 羽  
朱 炎  
さ 亥  
獲 物

紅葉

池の魚くく、見ゆかき、初のみち  
さきさく、枝もあひ、さきさく、初葉  
おみち、えや、月さき、の、さきさく、二か  
人あ、の、初さき、の、さきさく、りみち、さき  
浮き、け、のみち、さき、さき、さき、さき、さき  
弓、挽、て、一、里、さき、さき、さき、さき、さき  
初、り、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
土、さき、の、唇、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき  
さき、さき、の、さき、さき、さき、さき、さき、さき

等 裁  
梅 室  
華 村  
冨 文  
葵 太  
白 雄  
重 厚  
士 羽  
朱 炎  
さ 亥  
獲 物

秋

まつたけのつらさよき谷のね葉小 蒼乳  
 めききりてのつらさよき谷のね葉小 車池  
 禁火しつらさよき谷のね葉小 多よめ  
 このつらさを月紅あるもみちり小 梅室  
 あきやうと芝よけまはね葉小 由花  
 ね葉小つらさよきの根を忘るるり 霞白  
 群島のつらさよき谷のね葉小 甚山  
 頂上と禁火ね葉せめね葉小 悠々  
 きつらさよきの底まよみちり小 乙國  
 そとつらさよきのね葉小 風洞  
 並ねけつらさよきのね葉小 松堂

蒼ね葉

葉の若のつらさをせつとみちり小 鳥岩  
 もみちりつらさをせつとみちり小 梅通  
 葉の若やね葉のつらさをせつとみちり小 咸さめ  
 蒼ね葉のつらさをせつとみちり小 年心  
 まつたけのつらさをせつとみちり小 確衆  
 ね葉の上まよつらさをせつとみちり小 淡史  
 らね葉のつらさをせつとみちり小 赤白  
 ちね葉のつらさをせつとみちり小 一胸  
 まつたけのつらさをせつとみちり小 梅室  
 小葉のつらさをせつとみちり小 可部を  
 不破の葉戸さよきとみちり小 淡史

秋

草紅葉

軒下まじと枝まじし柿のみち  
 赤白結まじれ也より柿とみち  
 青かりし妹の垣根や早秋葉  
 夕暮の傾一葉ありまもみち  
 暮るりむしりくさるるまもみち  
 ちよこむちかたてふ葉を叫とみち  
 鼠尾花の紅葉もまもみちの答  
 二度と度刈きてまのもみち  
 赤ひじり舟のおき場や早秋葉  
 〴〵枯やまじ目見つる流の末  
 まのれやありまじり〴〵旭の夜  
 曉臺 葦村 曲棹 波田 一貝 岳風 湖中 寄洞 赤白 鶯洞

末枯

末枯や持まじりまのこも  
 うらうれやりのひまより葉落は  
 赤のれやまじり留ま枯まのま  
 ひまをまじり枯まじり末滅るれ  
 うら枯てあままのまじり  
 末枯や戸の閉けまれ船生  
 うら枯て葉のまじり河原ま  
 赤のれやまじり色まじり葉のれ  
 色まじりまじり色まじり葉のれ  
 いろまじりいろまじり葉のれ  
 いろまじりいろまじり葉のれ  
 いろまじりいろまじり葉のれ  
 成英 午心 流芝 淡島 卓池 泉湖 玄子 葵太 碩布 月高 而遊

色之ぬれ

秋



間引菜

万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる... 万の葉や留るる...

標由 成莫 白鹿 一色 乙二 旬光 乃山 一色

七五

梅暹

よのそら... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の... 梅の...

一色 乃山 旬光 乙二 白鹿 一色

袖

袖味唱

世のもの... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の... 袖の...

是美 恋々 由禁 護物 壯貨 淡史 一具 糞太 糞星 糞三 糞和

柿

秋

柿店や庵下流を人もなり  
 淡史  
 其のたつと柿を免て外少くも  
 多し  
 引布やちりち大槩柿は皮  
 為中  
 柿のしやそれお惣の音ひき  
 水竹  
 外人もなりやありむ山の柿  
 由斐  
 志のうきや常押のら山鳥  
 白雉  
 顔面眼のららそりや柿の濃  
 可勢を  
 中くま濃きを柿のなりし  
 由斐  
 濃柿もえらしく白けきり  
 波同  
 濃柿や色もまけぬ物つ  
 濃ふ  
 濃柿や一之敷と世もちの細  
 院村

濃 柿

栗  
 栗ひらと握て丸きふれも  
 五  
 かりの葉ももあやも栗  
 昔  
 為栗や整ひを秋あき山の  
 多  
 為栗好ともくまや板ひきし  
 風  
 若栗やめぬまうを星月敷  
 沙  
 ふけくと風をりのや栗推ひ  
 鹿  
 鶯尾も母は辛苦や栗の皮  
 梅  
 栗あしくも産の付合や小海船  
 萩  
 秋栗は口くさくさ西日丸  
 昔  
 秋栗やめけハ海もたき川  
 年  
 実をわけて流連り 濃や栗の秋  
 為山

栗

秋

木

白木の實おりのりも数ありん  
 多を明く持りたるぬ木は実さ  
 持たざるなれハ数ある木の実さ  
 こもきねもあつとも志ぬ木の実さ  
 けしき風も木の實さ持たたり  
 けしきやこりし推の下舎  
 けしきの様まてくらつりけしき  
 ちりき推木まのりも交りたり  
 推の實中人も持たぬ源さけ内  
 人はけしきくとまは推  
 推の實や湯りし通ひの小商人

長 翠  
 萬 志  
 炭 高  
 成 高  
 由 高  
 保 吉  
 乙 二  
 一 幽  
 越 亮  
 清 燕  
 一 具

推

突

虫

長あしきありせりけしきの新  
 月満しむを麓の下 音うあ  
 物夜後夜と若きもあけきの新  
 一巻くけしの音通を夜うれ  
 けしきくあつともたな流らけし  
 ちりき遊もくわも浦さけ  
 けしきくわしりけしきあつともけし  
 己うきし一圓さけねけしけし  
 けしきくわしりけしきあつともけし  
 小庭うも音をあつともけし  
 あそんきわいもきしけし

曉 臺  
 果 交  
 大 江 凡  
 一 子  
 長 翠  
 登 帆  
 高 池  
 若 白  
 嵐 外  
 梅 室  
 一 具

秋



松  
 虫  
 くらうく 遊り けり たり きて くら  
 あまの ぬ せ ち 流 せ せ くら くら  
 きりく ず 盤 せ 自 在 ち せ け たり  
 隣 の ち と なる け け け け け け  
 戸 ち 隣 け け け け け け け  
 きりく け け け け け け け  
 自 ち け け け け け け け  
 花 ち け け け け け け け  
 くら 細 け け け け け け け  
 松 虫 け け け け け け け  
 ま け け け け け け け

万 古 祖 口 曉 臺 奇 洞 碓 砦 棠 枝 風 島 碓 砦 月 底 雨 庭 林 曹

鈴  
 虫  
 け け け け け け け 一 枝 なく  
 ま け け け け け け け け け け  
 す け け け け け け け け け け  
 鈴 け け け け け け け け け け  
 す け け け け け け け け け け  
 す け け け け け け け け け け  
 さ け け け け け け け け け け  
 浩 け け け け け け け け け け  
 け け け け け け け け け け  
 け け け け け け け け け け

秋

茶立虫

秋をきくわあわのこを茶立むし  
 られとての身のあつなれ茶立虫  
 ひと病入しとて秋をきし茶立虫  
 けつとよのたけりなれと茶立虫  
 あれききとよの鳴りて茶立虫  
 燃きとて木麻をのり茶立虫  
 かりとての夕暮りあり茶立虫  
 茶立虫病むきとせとて枕りし  
 こゝろきとの鳴りてめとて柱さ  
 酔の屋根もたけりや煙出し  
 焼けたりとて夜をきとて下

白雄  
 五明  
 風馬  
 由琴  
 有音  
 栞室  
 清菴  
 就寺  
 五明  
 苦表  
 護物

轉

竈馬

焼や暮りたけりていりてけ  
 こゝろきとの孫も鳴りて佛りて  
 こゝろきとて戸麻の響りて煙の響り  
 まゝらきとてやあつなれとて鳴りて  
 焼のたけりや木麻をのりてけ  
 いりてたけりてとて居てけりて煙  
 けりてたけりてたけりてたけりて  
 焼とてせとて煙をきとて鳴りて  
 手さくりに枕さくりにたけりて  
 火を打とて出たりとておつてけり

玄子  
 苦山  
 柳壺  
 万古  
 成古  
 関文  
 白雄  
 一子  
 有左  
 碧山  
 夷則



蟬 躰

十里外 舟子云 ぬりあとうれ  
 ちかしくさるや 少せゆく 笠の中  
 あけ渡り 是をさす けしあき  
 舟返す 山溝へ 落ちつゝ かくれ  
 野々く きて 老ぬ 神を ぬらしき  
 かきさうり やさしく けし 立ちし 石  
 うほきう や水ま ながるも かけき  
 かまきり けき 居るん けき 葦の ぬれ  
 うまきら けき 居るん けき 羽根の けき  
 かまきり の なさく や 白の けき 水  
 うほきう けき 居るん けき 扇風 けき

梅室 寺阿 田風 秋哉 由望 蓬宇 梅室 沙路 而依 有岳 一具

蜻蛉

かまきり や おて 老ぬ けき けき  
 うまきり けき 居るん けき けき  
 けき 斜 雲 居るん けき けき  
 うまきり けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき  
 けき けき 居るん けき けき

由望 龍古 其村 蒼太 士朗 樗堂 昔美 一葉 糸池 鹿白 風浪

秋



秋 蟬

とんほろやあをむふけしやと杭工  
つとひりのま突とむとんほろ  
蜻蛉の板たええすくもれふ  
蜻蛉の戸登りけし唐の留書  
あ人より唐をむけとんほろ  
うも時羽書やとんほろ  
吹くよと草とんほろのちうと  
蜻蛉や何とんほろ言上  
秋の蟬とんほろ月日を鳴きよ  
二つとんほろ一つとんほろ秋の蟬  
秋の世とんほろのりつとんほろ

梅 笠  
西 庄  
ふとあ  
悠々  
碩 布  
立 字  
左 郎  
就 寺  
権 良  
存 亞  
京 池

秋 蝶

遠色の秋となくけし秋は世  
さし前くささささささ秋の蟬  
夕うけや鳴きさうたさあさはせ  
鳴けてあをまもさささ秋の蟬  
りけよささ秋とつとんほろ  
并高きあさささささ秋は世  
さささささささささ秋の蟬  
あささの蝶あささささささ  
秋のてつとつとつとつとつとつ  
ささささささささささささ  
席杖や風と遊とつとつとつとつ

蒼 乳  
梅 室  
獲 物  
菅 丸  
あ 上  
江 月  
尺 外  
士 羽  
吉 産  
峯 松  
長 巻

秋

秋 蠅

海にさるる力もあつて秋はてし  
 こころを憂ふもいふ事なくして秋のそよ  
 さまをたのむりもいひなくと秋のそよ  
 ゆきも葉もたのむすなりと秋のそよ  
 秋のそよと秋のそよと秋のそよ  
 将也くもて秋見もさるるよ  
 分たる人の秋もさるるよ  
 秋のそよと秋のそよと秋のそよ  
 人の中へ生きてやうと秋は蠅  
 何となくさるるのこころなうぬあまの蠅

在池 鳳洲 沈吟 源芝 万古 成志 一具 以吉 槐堂 梅室 大梅

全三

秋 蚊

飯櫃と志免と平れさうあまの蚊  
 新燈と暮るる痛きとや秋の蠅  
 うららちとよとよと秋の蠅  
 秋の蚊のふとさるるもさるる  
 あまの蚊は將もさるるもさるる  
 秋の蚊や蚊もさるるもさるる  
 秋の蚊のふとさるるもさるる  
 秋 螢  
 斗は尾よりさるるもさるるもさるる  
 町中や秋のそよの明ては  
 追ひつゝ子もさるるもさるるもさるる  
 秋のそよもさるるもさるるもさるる

意白 文翠 岱年 丈左 風高 月明 素明 成英 確衣 古翠 危外

秋

秋の音あらしとてあさるうり  
一 露

蛭刺啼 君を代をきりれそ和地刺啼  
護物

多きちかき風のたきとわみす  
小圃

紙とましく表家菊雪し地刺啼  
月影

白うりよとくすし和地刺啼  
露白

秋の如き空切てたきとくを  
所風

多しれちみきを鳴り推う本  
一 貝

雀掛る人待音わとく啼  
士 調

稲 秋あしと望むを志らぬ稲をぬ  
寒 松

追及よ強うわうまり 稲すぬ  
護物

そのやうに痛くはらぬは稲雀  
護物

鷓鴣

鷓鴣のめをぬきぬきぬき  
梅 空

あれぬと空中けりー 稲雀  
玄 子

仰山うたりて逝く和稲すぬ  
若 白

里くふぬさうとをきー 稲すぬ  
雀 皮

鷓鴣のめをぬきぬきぬきー  
杜 鰲

秋





厚啼て田舎へ入る秋波式  
 厚打らうと云うは白雲の河原  
 芦の厚やまをささきささくなり  
 厚結のり相成るうらる法う丸  
 ぬれて暮る月夜を待た小田の厚  
 暮る厚よいと見しりや西日秋  
 雲より秋遊崩しなり月の厚  
 訪年よりかきれと云う厚の厚  
 言はれ厚あうより秋あんせよなり  
 秋うらう二三日過し小田の厚  
 細あまり秋てを前厚は別

妻 悠  
 士 明  
 月 辰  
 乙 二  
 漫 々  
 蒼 帆  
 泉 池  
 秋 年  
 林 曹  
 抱 係  
 秋 空

全七

新

厚をゆくやうな素うたうく  
 厚なくや高ういふやうな厚の元  
 うらいのうは良うえゆる厚の考  
 うらうと云うつらうはゆる小葉か  
 うらうと云うつらうはゆる舞  
 入おのうのうは里や吹うつら  
 雲うと云うはゆるいもぬらうらふ  
 雲うと云うのうらうはゆるけさうら  
 水雲を枯らしまうはゆるうらう  
 秋起ちるは茶なり吹うらうら  
 秋を先て容易く吹ぬらうらふ

波 ぬ  
 ト 山  
 等 裁  
 五 明  
 乙 二  
 秋 空  
 風 派  
 風 派  
 雲 白  
 曲 盤  
 秋 月  
 回 風

秋



山	標	鳥	鴨	鵜
山雀 山雀やまをい風も鈴々き	標鳥 標鳥のまをまらもつくも標鳥	鳥 標鳥や標鳥あまらうてふて別道	鴨 鴨のまをまらもつくも鴨	鵜 鵜のまをまらもつくも鵜
木芝	相	風	一	為
村	鳥	洞	具	山
具	鳥	山	具	山
具	鳥	山	具	山

山	標	鳥	鴨	鵜
山雀 山雀やまをい風も鈴々き	標鳥 標鳥のまをまらもつくも標鳥	鳥 標鳥や標鳥あまらうてふて別道	鴨 鴨のまをまらもつくも鴨	鵜 鵜のまをまらもつくも鵜
木芝	相	風	一	為
村	鳥	洞	具	山
具	鳥	山	具	山
具	鳥	山	具	山

秋



舟押しなるも船の深きなり  
さし船中らひりしをれりこひひ  
降きしと自さたるれを船きひる  
いしと舟の横り船きひる  
んししと舟の深きなり舟きひる  
る所のあそれや一二この魚  
るしと船の深きなり舟きひる  
道信の舟のゆめ船力よりのり  
白風や船あそりくは夜きひる  
船の目しと船の深きなり舟きひる  
五尺さし船の深きなり舟きひる

草池 葎物 為山 栲室 白松 古翠 王字 淡高 一帆 栲山

落船

崩築

とる船の深きなり舟きひる  
葉舟とて干しと舟の深きなり舟きひる  
湖を崩しと舟の深きなり舟きひる  
舟代や舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる  
舟の深きなり舟の深きなり舟きひる

乙二 一具 落山 舟風 舟白 舟白 舟白 舟白 舟白 舟白 舟白 舟白

初鮭

秋

舟の深きなり舟の深きなり舟きひる

岐山



蛇穴入

入るあしやねんくはげし蛇の花  
穴より蛇の尾よりけし  
穴より入る蛇見ゆる中へ見ゆるぬ  
思ふよりさきくちや蛇の穴まじり  
鹿笛をひくもくちよなひこし  
しる笛のふく志きく月夜が  
志る笛をくちしつかけきくこ  
志る笛や空よりくちぬ月の光  
志る笛やつくしりけし西ひし  
鳴りて鹿ふくけし谷の  
移るや志る中より志の輝

鹿笛

鹿

護物 于魚 透洞 一具 乙二 孤星 凡全 風高 氷石 深文 葵太

ぬれしるくちの月夜は光りぬ  
志る笛をくちしつかけきくこ  
志る笛や空よりくちぬ月の光  
志る笛やつくしりけし西ひし  
鳴りて鹿ふくけし谷の  
移るや志る中より志の輝  
ぬれしるくちの月夜は光りぬ  
志る笛をくちしつかけきくこ  
志る笛や空よりくちぬ月の光  
志る笛やつくしりけし西ひし  
鳴りて鹿ふくけし谷の  
移るや志る中より志の輝

曉臺 甚村 白梅 蝶夢 士羽 泉池 蒼三 苔美 一原 日人 椿堂

夕をりなしくてしらの香  
 一うま持きんるる尾上り丸  
 本は葉ふまきしやそそ若の香  
 なく思ふこころのた病きか  
 引唐や白紙毎原一文子  
 若くそりの好ふらふ山家と  
 月夜ふたなるとおのそ思のそ  
 唐ちくや母のひらけまき宵の地  
 一うま持きんるる尾上り丸  
 志ふのちくそ和るらくちまの良  
 鳴しうや森の一灯まふさき

蒼乳 風洞 大梅 護物 卓池 若白 山外 若山 一具 由野 柳室

追加

来秋

秋暮るも鳴や無答は深子鳥  
 暮る秋やまきしき隣とらうら  
 相の葉まけさ暮し秋の足えまきり

長翠 蒼帆 ちちを

今日秋

暑くもまけて塔し和らよの秋  
 新極よりち水志よりけし秋秋

一鼻 休和 為山

秋暑

雨うらむ薄よ秋のあつきふ  
 加茂川や誰やらさるる星の夕

首阿 士訓 加久農

秋

鳥鶴橋	かきさとしつてうらくしむる時	千
星別	更なる夜をぬりて星の別遣ふ	真 保 吉
庭立琴	別遣ふと見えたり 星を露の真	由 吉
七夕鞠	立琴や家の空路に風はうく	乙 二
迎鐘	立琴うきまへに秋風の志くく丸	几 董 派
新盆	中ら授の夜もわれよ鞠袴	可 僚
	高まりや月を七日の曇るやこ	而 越
	弟よけの返り浮世や迎ひこふ	其 表
	松更ちまへに秋の夜を新聖霊	碓 岩
	よきまをまねておとすに新聖霊	

魂待	これ子なり魂待の夜子もき	白 雄
魂送	たまむのくまは返りて夜をふし	八 明
蓮飯	たまむのくまは返りて夜をふし	長 表
麻木著	夜子やも孝はひとらゝ鬼おろ	淵 堂
瓜馬	塩魚の志かこむ道なり 蓮は飯	白 雄
經木流	ふくふくしうらぬそまを道の飯	碓 岩
	あまれ世や麻木の箸のそみへら	也 有
	ぬれ了りくまや風のうく麻木著	保 吉
	悪魔の世のそまをたりて道のこ	寒 杉
	ちりの世はちうと流る経木これ	喜 澄

秋

地藏會	遊峯入	不知火	舟火	門茶
ふともよみや地蔵寺うけつる工と 地蔵寺やひらうもんえぬ母の友	ふみや岩うらめき岩りみち 峯みや岩うらめき岩悟あて	ふ知火やんねもきことと 照あてみや岩を色り照茄子	小ぢなれゆらふ舟火のゆりけと お伴と葉物賣ての茶うな	流し其て零うめと経たれ 約年もあるつる家の門茶うな
壽堂	南柳	梨鑑	道彦	存亞
右高	龍吉	管秋	松通	大梅

茗荷花	鴨頭花	仙菊花	旋覆花	常山花	廿六夜
花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷	花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷	花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷	花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷	花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷	花の用と親もたちとては茗荷 花の用と親もたちとては茗荷
乙二	松園	五明	文路	七雨	干魚
如毛	碓衣	菓飛	助宣		

犬子草	盗人も姑くおとろく	犬子草	成英
水引草	秋の露も引草能く咲く	水引草	斗色
千日紅	赤く咲く千日紅	千日紅	鬼遊
秋草	秋の草も秋の草	秋草	春團
田虫送	田の虫も送る	田虫送	双鶴
	養蚕を民の具足とす		三桃

虫撰	よき虫は秋の虫	虫撰	湧水
虫合	月夜を渡る	虫合	初雅
促織	秋の虫は促織	促織	長翠
蓼虫	秋の虫は蓼虫	蓼虫	潮堂
馬追虫	秋の虫は馬追虫	馬追虫	護物
辰の虫	秋の虫は辰の虫	辰の虫	一葉
藤の虫	秋の虫は藤の虫	藤の虫	雨塔
	藤の虫は藤の虫		護物

秋





亥中月	子中月	丑中月	寅中月	卯中月	辰中月	巳中月	午中月	未中月	申中月	酉中月	戌中月	亥中月
盃のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき	のひき
長	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬	萬

駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒
駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒
駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒





荒鷹	あゝ鷹やもふはさくは月夜	漢物
小鷹狩	あゝ鷹狩存も遊さむの備一	池矢
鳩	あゝ鳩つ尾をさすつ小鷹狩	道夫
吹	あゝ吹よりの生えふれけは	恒丸
鴨	あゝ鴨やこゝの的のけをらし	長松
菊	あゝ菊のぬきも西日よ	松城
	あゝ菊のぬきも西日よ	巢也
	あゝ菊のぬきも西日よ	一具
	あゝ菊のぬきも西日よ	宗積
	あゝ菊のぬきも西日よ	才

小雀	あゝ雀や岸は小雀のつ列も	一系
四十雀	あゝ雀四十雀をわつくも四十雀	青扇
五十雀	あゝ雀五十雀をわつくも五十雀	長松
豆鳥	あゝ豆鳥は年よるも五十雀	巢居
色鳥	あゝ色鳥は年よるも五十雀	色洞
類白	あゝ類白は年よるも五十雀	四明
類赤	あゝ類赤は年よるも五十雀	風高
	あゝ類赤は年よるも五十雀	三浦人
	あゝ類赤は年よるも五十雀	賈天
	あゝ類赤は年よるも五十雀	柏松

秋

火燒鳥	うみちうなまゝて人の居る方焼鳥	一具
尾越鴨	羽たれてあつらひを待和火焼鳥	鹿鳥
雀成蛤	松越のこゝや尾越の鴨けうけ	石橋
網代打	霜月けいふや尾越鴨	一具
秋 悵	音うらうら知事まゝや尾越鴨	田舎
	塩と塩まゝまゝと道崎まゝ見	荏白
	塩まゝまゝまゝまゝまゝ見	大針
	網代まゝまゝまゝまゝまゝ見	荏荏
	打はまゝまゝまゝまゝまゝ見	荏荏
	つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ	杜鰲
	一編のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ	一羽

悵 別	うやの別まゝまゝまゝまゝ	白橋
置洗濯	宿まゝまゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
菊 合	望の秋丹候や置洗濯	荏荏
菊 綿	まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ	葛洞
初 芽	負芽まゝまゝまゝまゝまゝ	一葉
	白芽まゝまゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
	まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
	子まゝまゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
	葉のまゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
	初芽まゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏
	初芽まゝまゝまゝまゝまゝ	荏荏

秋

桂園	山姥めをとりてり	實志あり	一五
紅葦	紅葦や葦いりのと	足す	五歌
	紅葦よ	山口志く	芝生うれ
羊肚菜	控らう	子お	色せう
毒葦	人とも	葦や	ま
根葦	足る	度よ	木葉を
豆若月	境目の垣	お	な
	豆若月	お	な
后目足	生海荒	な	と
	垣	つ	も

月名残	満月と	な	る	と	く	月	の	名	残	ど
牛糸	角文字	け	い	さ	月	も	う	牛	糸	三
野宮別	野の宮	お	け	こ	れ	う	ひ	て	大	根
木綿取	木綿	取	れ	お	の	名	お	け	こ	れ
新綿	新	綿	と	な	る	と	く	月	の	名

秋



金柑	蜜柑	梨子	本賊刈	蕎麦刈
金柑はひとよ葉はぬきやうをれ	舟路まゝるるよ味をゆつらん小	たうやりの葉を喰ふはまゝあり	たふまゝを生たうよし本賊刈り	まけらうよきうらな道を脱のうへ
せん柑や一分少割の紙で包	新柑のまやきみうんは木下式	大江丸	由芝	而越
文鯉	由芝	瑞雲	相什	法丸
	三浦人			

木通	蓮実流	棗	葡萄	拓榴	九年母
海り餅や木通はよく整うん	蓮の實は花や種のみすきき	一二皮を食うまゝんんんんんん	年きれもんえぬ少うは葡萄か	漆をそし破て見せる松榴うれ	九年母の葉まめのりきんんんん
	萬古	瓦村	一桃	匡甫	芥水
	以吉	未丈	就吉	多あ	

秋



櫻	實	櫻の實はくくもあまきあらし	一	菜
櫻	實	川の實や推して是る子を一人	二	柴
善	花	善花子善花子や人あまきあうく	三	飯
松	實	されくくも秋もさむの松の實	四	極
松	實	あまきなる秋の久しや松の實	五	炭
榎	實	えのこもむきの中へ鳴るの松	六	柳

榎	實	せんとんや実も二葉の白いせよ	七	梨
桐	實	せんんの実をとる松の別道	八	翠
桐	實	さうは実や海あ久しき松の色	九	翠
木	瓜	木瓜の實や母は秋に秋り	十	炭
栗	實	とんとうもつは上のは秋よ	十一	木
栗	實	せんんや実を母は秋の水たまり	十二	古
秋	鐘	秋人の秋はあまき秋の心	十三	柳
秋	鐘	あまき秋の心はあまき秋の心	十四	柳
末	秋	あまき秋の心はあまき秋の心	十五	柳

秋



